京城日報

一日夕刊

本紙定價 一部金二錢五厘 一ヶ月金五拾錢(郵送料共) 一ヶ月金六拾五錢 三ヶ月金壹圓九拾錢 六ヶ月金參圓七拾錢 ▲郵券代用二割增
廣告料 ▲五號活字一行金七拾錢 ▲特別欄內一行金壹圓貳拾錢 ▲場所指定一行金拾五錢增 ▲三號活字は五號活字の二行同樣 ▲六號活字は五號活字の一行同樣の事
發行兼編輯人 奧田直毅 印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社 電話番號 編輯用 三二四番 三二一番 營業用 三四五番 二六番 振替貯金口座 京城三六〇〇番

總督訓示

各道農業技術官會同に於て

農業技術官會同第四日の席上に於て山縣政務總監の代讀せる長谷川總督の訓示左の如し

農業は朝鮮產業の首腦にして之が消長は直に財政經濟其の他諸般の事物に影響する所極めて大なり、抑新政の當初に於ては民に自彊の念なく因襲の久しき農耕の法廢頹し旱水害頻りに至り、秋收豐ならず、早春已に食物の缺乏を訴ふる者を所在に見るが如き、農村の疲弊其の極に達せり然るに未だ幾年ならずして漸く陋習を蟬脫し著しく農產額を增進し之を新政の當時に對照するに其の差實に顯著なるものあり、卽ち米は七百九十萬石より一千百四十萬石に、麥は三百五十萬石より六百六十萬石に、粟は二百六十萬石より三百五十萬石に、大豆は百八十萬石より二百八十萬石に、棉は一千百萬斤より四千五百萬斤に、繭は一萬四千石より五萬九千石に、牛は七十萬頭より百卅五萬頭に增加し其他幾多の農產概ね同一の趨勢を示さゞるなく其の價格總額實に一億五千萬圓より三億圓に激增せり、更に又農產物輸移出入の狀況を見るに輸移出額は一千五百萬圓より四千餘萬圓に進み、輸移入額は當初增加の趨勢を呈せしも幾何もなく遞減し大正四年には一千三百萬圓に下り、而して明治四十三年には僅に七百六十萬圓の輸移出超過に止まりしもの大正四年には二千七百三十餘萬圓の輸移出超過を示せり、特に本年は米、麥、大豆、繭等何れも豐產にして加ふるに價格貴く到る所鼓腹擊壤の狀態に在るを得たるは實に欣ぶべく又以て各位の努力を多とすべきなり惟ふに今や農政に關する方針は大要確立し勸農機關略整備し諸般の施設亦概ね遺漏なく行はれ其實績漸く顯著なるものあり、然れども大局より觀れば之が大成は寧ろ今後に在りと謂はざるべからず、卽ち之を米、麥、大豆等の作物に就き見るも尙其品質乾燥、調製等に於て改善の急を要するもの頗る多く又之れを養蠶、養畜、養鷄、繩叺製造、其他の副業に就いて見るも能く地方の風土と事情とに適應したるものを採み農家をして普く其の利益を享けしめむは前途尙遼遠なり、其他自作農の保護、小作慣習の改善、內地移民の指導、農村の矯風等諸般の改良を要する事項皆然らざるなし、各位は向後一層能く農家の實情を考覈し之に適應する措置を講究し道長官の指揮を受け指導誘掖に努め恪勤精勵以て豫期の效果を擧ぐべし。

羅馬尼軍の集中

羅國首都に通ずる地點を扼す

倫敦タイムス軍事通信員の所報に曰く羅馬尼第一第二第三軍は大砲軍需品等に於て格別重大なる損害を被らずプレデアル隘路よりブカレストに通ずる道路の西方に集中し居れり假令如何に形勢險惡に陷るも北方の諸隘路を維持し居らば退きて露軍に合するを得べしと(紐育電報)

羅國首都防禦の大會戰

報道遲しと待ち受けらる

ブカレスト防禦の大會戰に關する報道今や遲しと待ち受けらる佛國軍事通の述ぶる所に依れば各國公使公使館員銀行員等は數日前既にブカレストよりジャッシー方面に移りたるも羅馬尼軍總司令官アヴエレスコ將軍及び聯合軍は其の大本營を他に移さずと(紐育電報)

海軍の異動

鎭海要港部司令官更迭

鎭海要港部司令官山口九十郞氏は佐世保工廠長に南洋防備隊司令官東鄕吉太郞氏は鎭海要港部司令官に任ぜられ猶加藤軍醫長外十二名轉任待命等の異動ありたり(鎭海特電)

秋山大將通過

秋山大將は三十日夜京都著十二月一日午後八時大阪通過歸鮮の途に就く筈(大阪特電)

觀戰武官通過

海軍大佐田中耕太郞氏及び稻口中佐扁井少佐等は露國に於て觀戰の爲め一日朝釜山著同十時半發列車にて目的地に直行せり(釜山特電)

森武官釜山著

總督府海軍武官森義臣氏一日朝新羅丸にて釜山著同十時半發列車にて京城へ向へり(釜山特電)

寺內首相謝狀

赤十字社並に愛國婦人會兩朝鮮本部にては寺內首相が朝鮮總督在任中に於ける指導誘掖の勞に對し謝恩の微意を表する爲め過般來鮮の兒玉書記官長を介して記念品を贈呈したるに今回首相より叮重なる謝狀を寄せたりと

總督東京出發

長谷川朝鮮總督は二日東京發來任の事となれり、途中伊勢大廟、桃山御陵等を參拜の筈なれば著任期は多分十日內外となる可し

總監邸晚餐會

山縣政務總監は三十日午後六時より陸軍參事官立花俊吉氏、總督府囑託關野博士を官邸に招待晚餐會を催せり總督府側よりは秋山參事官、荻田總務局長、和田土地調查局總務課長、小田編輯課長、遠藤祕書課長等列席せり

農技官會同(第五日)

各道農業技術官會同第五日は一日午前九時三十分より總督府第二會議室に開催出席者前日の如く小原農商工部長官統裁の下に直ちに日程に入り午前午後に亙りて諮問事項の答申あり三時閉會したり

調查局減員

臨時土地調查局にては三十日判任技手書記二百六十九名を解職の結果其の定員千七百八十二人を千五百十三人に減じたり

ハリス博士入京期

元日本美以敎會の監督たりしハリス博士は今回其後任として來朝したるエッチ、ウエルシム氏と共に客月二十七日橫濱に上陸したるが一行は來る六日南大門著にて入京ウエルシム氏は兼ねて建築されつゝありし西大門の新居に居住しハリス博士は來る十日擧行の筈なる京城美以敎會建堂式に參列せし上鎌倉に赴き餘生を送るべしと

向井檢事長入京

平壤覆審法院檢事長向井巖氏は卅日夜入京天眞樓に投宿せり京城法院側及び知友等は一日午後六時より氏を花月に招待し晚餐會を催すべしと

若し穀價低落せば

滯貨の洪水を現出せむか

鮮銀支店課長 阿部秀太郞氏談

朝鮮各港の十一月廿八日現在停滯穀類は米を主とし卅三萬六千七百叺の多數に上り之を各港別に示せば如左

仁川	五〇、〇〇〇叺	群山	八五、〇〇〇
釜山	七二、〇〇〇	木浦	二〇、〇〇〇
鎭南浦	一三九、七〇〇	合計	三三六、七〇〇

此の素晴しき滯貨は第一船腹の不足第二に鐵道輸送力の不十分を數へ得べきが其の港頭累々堆貨山積せるは其の旺んなる產地よりの出廻り旺盛の爲めにて各產地は內地相場の好調にあり何故本年の穀類相場が好氣配にて上向きの體にあるやと云へば其の米に關し各方面の所見を綜合するに主要理由は下の如し(一)通貨未曾有に膨脹し其の結果物價は殆んど悉く昂騰の勢ひにあり然るに獨り米のみは諸商品の騰貴に伴はざりしも最近漸く大勢に順應し初めたる事(二)內地各府縣を通じ秋日和米作に可ならず鮮入不足の聲あり(三)同じく天候の關係上其の收穫期二週間乃至三週間遲延せる爲めに若干殘存せる古米は殆んど其の間に處分されし事(四)古米殘存の數量案外多からず(五)戰時米の輸出を見たる事等相俟てるものにて玄人筋の觀測に由るも相場の前途は强氣配なる如し之れ滯貨の荷捌け捗々しからざるに拘はらず各地商人及び農民の辛うじて持ち堪へ得る材料と思はるゝが若し此際何等かの關係により穀價漸落の商狀を見る如き事あらんか各地の恐慌甚しいて移出港に對する出廻りは雪崩を打ち廻穀の洪水を現出するや計り難し現に角米產地の狀勢を見れば注文米にして港の滯穀不捌けに因り其の積出しを躊躇し居る分非常の數量に上るものゝ如く何等かの方法に基づく各港各地の滯貨輸送は年末に際せる朝鮮財界にとり緊要を要する問題なり

傳家甸と鮮銀

十二月一日より朝鮮銀行にては北滿傳家甸に哈爾賓支店の派出所を新設したるが其の理由に付同部支店課長の談を聞くに傳家甸は哈爾賓の露國市街を距る約十四五町の位置にあり往日露西亞に於て哈市市街の建設に當り時家屋建築並に衞生設備の如きに嚴重なる取締りと拘束を加へし結果其の煩と費用に堪へず支那商人は哈市に近接せる傳家甸に一集團をなせしものゝ如く爾來漸次發展して今日は五萬以上の人口を包容するに至り有力の支那商人亦少なからず殊に同地は北滿大豆の大集散地として又砂金の出廻り少なからざる市場として汎く知られ居るが朝鮮銀行は特產に對する金融の便を圖り又砂金の買入れに從ひ一方南滿各店より對哈爾賓支店被仕向傳家甸取立の爲替も可なりの數に上り一々哈市より同地へ行員を派するは不便の點なきに非ず加ふるに支那商人の要望もありしたれば哈市支店の一派出所を開設したる譯なり尙ほ同地に於ける外國銀行の設置は朝鮮銀行を以て嚆矢とする由(阿部支店課長談)

全北輕鐵成績

全北輕鐵の十一月中旬に於ける收入は乘客三千三百零二人貨物輸送九百零八噸收入千六百十七圓なりと

鴨綠江の流氷

鴨綠江は兩三日前よりの寒氣にて流氷を始め三十日の如き僅に安東縣側の一部に於て是を認めざるのみにて江面全部殆ど流氷を以て閉され居る狀態なるが鴨綠江の結氷に對し多年の經驗を有する稅關支署員の語る處によれば多分今後の暖氣にて一度全部流失し去りたる上再び流氷を始めて漸次結氷することゝなるべく橇の交通を見るに至るは昨今の氣溫を以て進行すれば十二月中旬を過ぎて後なるべしと

▲船舶の引揚 稅關支署警察署及び遞信司所滿鮮運送會社等孰れも前記の流氷狀態に陷るに先ち一兩日前より已に其所屬船舶全部を陸上に引き揚げたるが一般に朝鮮人支那人共に船乘業に從事するものは氣溫の漸次低下し行くに警戒し居たるものと見え例年の如く流水中に閉ぢ籠められたる戎克一隻も無き樣子なり(新義州)

森武官一日夜歸任

總督府附武官森義臣氏は歸任の途中に在るが一日午後九時南大門驛著列車にて歸任す可し

芳賀院長の視察

芳賀總督府醫院長は東大門外に於ける南山商會の製肥狀況視察のため三十日同所に赴き田中衞生課技師より詳細の說明ありたり

東萊陸軍療養所復設

東萊溫泉場に於ける陸軍轉地療養所は虎疫流行の爲め八月以來閉鎖し居たりしが同病も最早終熄したるを以て十二月一日より從前の通り開設す(釜山)

嶺南廻り

鯨洋

□三浪津より 三寒に入りたりとて、大邱より寒威加はる、雲間寸時、日光を仰ぎしも、忽ち雪空となる、幸に車內は暖かなり、窓外風頗る强し。談敵なく、讀書に耽る。慶山を經て、淸道に到る頃より、小生背後の紳士、亦無聊に苦みてか、謠曲を始む、初は低聲なりしも、興至るに及んでか、腰掛上に端坐し、謠本を前にして、香吐朗々、車內を壓す、大天狗か小天狗か、鞍馬天狗か、小生の關する處に非ざるも、實は辟易せり。暫時を投じて沿道の風色を貪る。楡野菊の霜に恐れざるも優に、楡川を越ゆれば、殊に雅なり。古柳の褐色せる、密陽川畔一体の白楊は鮮なる黃色、目覺る許り、松林の翠、潑々たる竹林、臥虎の如き丘埠、何れも行人を喜ばせ、興を催さゞるはなし。小生の隣席の一人者は、此の風光に對し、頻に鉛筆をなめて、俳句を造すを見たり。而も小生は惡詩の一絕をも得ず。小生は馬山線に轉乘、謠曲先生何處迄聯絡せしや知らず呵々(十一月廿七日)

□馬山埠頭より 三浪津よりの列車中には、鄕津釜山檢事正あり、大原水產組長あり。洛東江畔の農地は未だに今夏水害の慘狀を留め、見る者をして、當時を追懷せしむ、進永の村井農場の如きも其の慘骸彼之に點存す、沿道には、果樹園の如きも多く、梧桐の栽培多し。梧桐は農家の副業として、恰好の仕事にて、幾年後に於ては、每年殆ど無投資にして、多額の收入を得る容易なり。四國邊にて、女兒を產せば、肉桂の木二本を植ゆべし、然らば女兒の成長して、嫁入費用は、其の肉桂を賣却せば、仕度充分なりと、同じ類と知るべし、彼は僅に嫁入仕度なるも、之は財產を作るを以て、到底其比に非ず、大に獎勵仕度ものゝ也。昌原は洵に、幽邃の地なり、頗る盛なるが如く、之に對して普通學校の設備も、敗けぬ丈けに出來居れり。午後五時馬山に著し、舊馬山には見事なる耶蘇敎徒の學校あり、昌信學校とか云ふ、校況直に船便に由て、三千浦に向ひ、晉州に入らんとす、而かせざれば空しく一夜と半日を空費せざるべからず、旅行を急ぐの人は注意すべし、午後六時慶寶丸に乘ず、寒風强く、天暗くして、星光だに見ず(十一月廿七日)

仁川

▲奧田會頭歸任 豫ねて東上中なりし仁川商業會議所會頭奧田貞次郞氏は一日午前十時歸任したり ▲實行委員會 仁川商業會議所にては一日午前十一時より大豆特定運賃撤廢實行委員會を催ほしたるが來會者は稻田白神田中阪倉武田丁致鵬の諸氏なりし ▲仁川府徵稅成績 仁川府徵稅成績の良好なるは屢々報道せる處なるが本年は虎疫發生の爲め大いに產業の發展を害し經濟界に大打擊を蒙りたる事あるにも拘らず客月中市街地稅を完納し今又本月中納期なる家屋稅四千六百三十二圓二十錢同上附加稅二千三百十六圓十錢酒稅一萬九千二百八十三圓九十一錢を本日を以て完納したるが如き府當局の苦心は察するに餘りあるも府住民の納稅義務觀念の厚きは實に嘆賞に値する者なり由來公課滯納の弊は內鮮人共に甚しく各郡府に於ては常に此れが爲めに諸般の施設を阻害されつゝ有るが此點より見れば仁川の徵稅成績は實に全鮮に範たる可し

平壤

▲滿期歸休兵出發 步兵第七十七聯隊の本年滿期下士七十四名及び歸休兵二十五名は十一月三十日午後一時三十分平壤發列車にて內地に歸還せり驛構內に於て將校下士卒の見送盛なりき ▲新入營兵と相談會 三日平壤步兵第七十七聯隊に入營すべき新兵八百七十名を歡迎すべく平壤府官民は其方法に付き卅日相談會を府廳に於て行ひたり ▲檢事長上京 平壤覆審法院向井檢事長は同法院細田書記長を隨へ十一月三十日午後一時三十分發列車にて上京せり歸任は十二月四日なりと ▲田中學士來壤 總督府囑託文學士田中梅吉氏は新義州より十二月一日來壤旅館柳屋に投宿の上平壤に四五日滯留種々を視察すべしと ▲海州公普校長視察 黃海道海州公立普通學校長西山鶴吉氏は十一月二十九日來壤同日より十二月一日迄平壤各學校學事視察の上同日午後六時歸任の途に就くべしと

◎釜山と名士

▲奧田貞次郞氏(仁川商業會議所會頭)卅日午前連絡船高麗丸にて上陸同十時三十分發列車にて仁川へ ▲綾部濤太郞氏(鎭海防備隊附海軍中佐)同上馬山へ

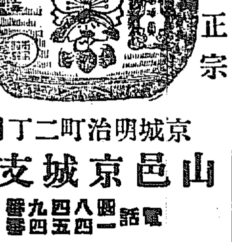
人事消息

▲鵜野貞氏(工學博士) 一日朝退京內地へ
▲立花俊吉氏(陸軍省參事官) 同上
▲橫尾新太郞氏(紐育土地建物會社員) 一日夜退京
▲ミラー氏(京城駐在米國領事) 一日午前成歡へ
▲アオサト氏(新任露國副領事) 一日長崎へ向ふ
▲小笠原好雄氏(元鐵道局囑託) 一日午前元山を經て露國へ向ふ
▲根藤四郞介氏(李王職事務官) 二十九日黃海道方面へ出張
▲堀江吉之助氏(東拓庶務課長) 總會要務の爲め東上中なるが一兩日中歸京すべしと

入院隨意 京城永樂町二丁目(商品陳列館裏門通) 酒井婦人病院 電話二六〇一 〇八番

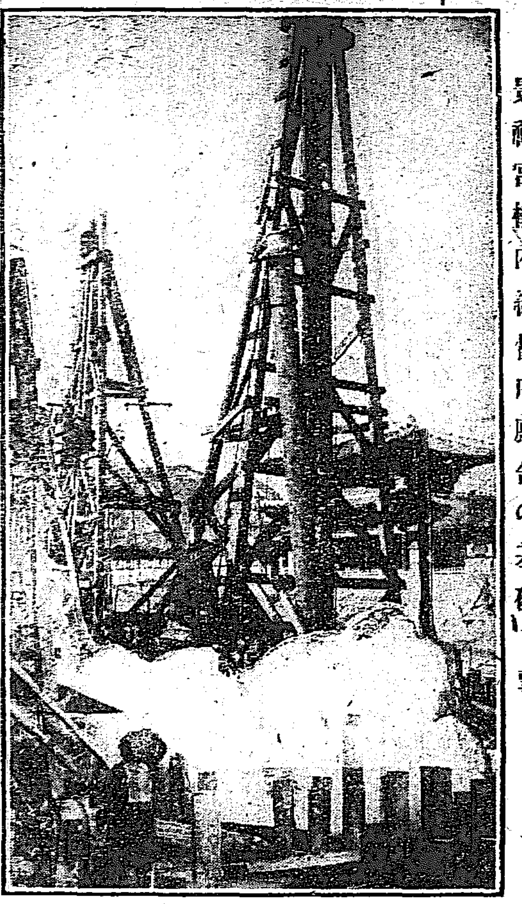
今！直ぐ！！世界一の ワシミルクを御子樣の爲め！

內科。小兒科。外科。花柳科。眼科。皮膚科。產科。婦人科。胎兒男女別の鑑定 家畜病科 狂犬病の鑑定 狂犬病豫防注射
診察無料 藥價實費低減 入院隨意 診療時間 晝夜
京城府岡崎町五番地(古市町電車停留所前) 私立 岡崎町病院 電話長京城一二五二番
但し初回の往診料は車代申受候(龍山方面より電話にて往診御申込の際は電話料病院負擔可致候)
職員 雨森良三 日高廣矢 高木正人 瀧川繁太郎 依光重晴 島田菅二

比較は最良の撰擇法なり!! サクラ正宗 サクラ正宗

京城明治町二丁目 山邑京城支店 電話 四〇八一 四九四五 振替京城五七番

電氣すき燒 相始め申候
冬期のお食事はお手輕で溫かいすき燒に限ります殊に今度特に取り寄せました電氣爐で電氣應用のすき燒は他に類の無い理想的なものですお試しを願ひます
旭町一丁目公園下(電話二九一・一七一四番) 松秀庵 白水
南大門通三(電話二五七一番) カフェータイガー
▲尙平素御愛顧の御禮として兩店共特に勉强仕候間忘年會等は多少に不拘御下命願上候

景福宮構内、總督府廳舍の基礎工事



一萬本の大丸太を
ドシ〳〵打ち込んで總督府の地固め工事
景福宮構内の地盤は理想的だ

工事が出來あがつたら恐らく宏壯雄大な點に於て東洋第一だらうと稱へられてある朝鮮總督府の

▼新らしい建物は

此のごろ共進會あとの第一號館のところに基礎工事を急ぎつゝある、何分にも間口七十一間八分、奥行三十九間、中央塔屋の高さ百十七尺、各階總建坪九千六百四坪の石造複古式建物といふのであるから其の基礎工事もなか〳〵入念に作業しつゝあり、光化門を這入つて現場の工事をのぞいて見ると

▼共進會第一號館

あとから勤政殿入口の勤政門前までは廣い地面が四角に十五尺以上も掘り下げられて西側の以前水禽の居つた溜池のあたりは山ほどの土が積みあげられてある、折から電氣や蒸汽の杭打作業が始まるよと見れば長さ二十五六尺の大柱のやうな落葉松の丸太がドシン〳〵と地面深く打ち込まれつゝある、打ち卸すモンキーは

▼重量二百八十貫

ばかりの四角な鐵でこれを鋼鐵のワイヤでスル〳〵と吊しあげドスン〳〵と杭の頭に打ち落すのである總督府貝沼氏の談によれば此のモンキーを人夫の力によると一つの機械に約百人の人手が要ります、一時は馬でも試みて見ましたが馬は一頭で人間の八人分のはたらきをしますけれども午後からは

▼突ても曳いても

動かぬので駄目になりました』とのこと『此の邊は中央の塔屋の眞下になるので此の通り隙間なく棒杭を打ち込みます』とのはなしに見れば長短不揃ひの大丸太がジメ〳〵した水の間に打ち込まれてあつた、杭の丸太は總數九千三四百本、今打ち込んだのは總數の半分位ゐであるがこれを鴨綠江の營林廠から取りよせても値段は一本五圓からとのこと、今年は

▼十二月の末まで

に工事を了つて來年はその上をコンクリートにして其の上に掘りとつた土を敷ふばかりでお了いとある、次いで家の工事らしくなるのは再來年の大正七年度からで來年までは地面がもとの通りにするまでのことで一向工事らしくないとのこと猶ほ國枝技師の談によれば景福宮の地盤は實に立派なもので地面から十五尺以下は概して砂地である

▼由來砂地は地盤

としては理想的のもので地面を固める爲めにはワザ〳〵砂地工事といふのを施すほどのものである、地質は實に世界最古のものであつて今迄京城の地下としては未だ曾つて人間の手を付けたことのないところまで掘り下げたつもりである、今から五百年以前李朝太祖が此の景福宮の造營に着手した時にも下つてまた大院君の大工事にも土臺の基礎工事といふものは

▼十尺以上を掘り

下げてないやうである、故に光化門にしても勤政門にしても重たい建築はだん〳〵建物が下つて來るやうである、それに肉眼では地面が水平のやうに見ゑても實際は光化門と勤政門とで五六尺の傾斜になつて居る…『さ、來る大正十二年を以て落成すべき新總督府の建物はかくして大正五年の歲暮の工事をいそぎつゝある

三十日午前 元帥安靜

大山元帥の容態は卅日午前嘔吐殆ど稍減じ腹痛も幾分輕少の氣味にて前日と大差なく赤酒少量を攝取し午後も引續き安靜なり(東京特電)

憲兵警官聯合の大運動會
七百名の競技

京畿道警務部、京城憲兵隊を初め京城府内の各警察署憲兵分隊及び常備消防隊聯合の大運動會は二日午前八時煙火の合圖に依りて各隊隊員一同出場の上同十時より京城神武門外の廣場景武台に於て開催の筈なるが各隊署共主として非番員を召集し警務部長以下憲兵補助員巡査補に至る迄總員約七百名一同整列の上隈部警務部長より人員點檢並に訓示あり終つて愈々運動の競技に移るべく運動は第一回の二百米突の徒步競爭より始まり第三十九回の假裝行列を以て終了となす豫定にて其間各隊署共種々の意匠を凝らしたる奇抜なる競技演習あり而して當日は各隊署員の家族及び特に案内狀を以て招待したる來賓等多數ありと因みに運動會の係員は左の如し

▲總務委員長吉田副官、係員京田軍曹▲接待係警務部各高等官、眞野成南警部▲設備係小[illegible]警部▲案內係西脇警視、牧瀨警部▲審判係[illegible]呼子警視、係員宮舘、松井、小山田、矢野名[illegible]署長松尾特務曹長、森、牧島兩警部▲賞品係吉田副官、兵部警部▲競技係林曹長、山中伍長、赤平警部、村岡伍長、神崎軍曹、介隊署警部及び下士一名宛▲救護係瀧野警部▲警備係藤田警部及び巡査若干名

末怖しき少女
主人の貯金を引出す

熊本縣菊池郡生れ深田さよ(一七)は本年七月五日より釜山富平町三丁目平井末太郎方に女中として雇はれ居たるが十一月一日家族の不在中同家の長女あいが四十一圓八十一錢五厘預け入れある貯金通帳と檢印とを竊取し翌日病氣と稱して暇を取り草梁の實家に歸る如く裝ひ西町四丁目郵便所にて該通帳に竊取せし檢印を使用し預金全部を引出し信玄袋及び柿等を買ひ同日主家に歸り塵箱の下に隱し何喰はぬ顏にて働き居たるが釜山警察署にては末太郎の盜難届ありたるより西町郵便局に至り當時の模樣を取調べたるに貯金引出しに來りたるは十五六歲の少女なりとの事を探知したるよりさよを引致し取調べたるに全く同人の所爲なる旨自白したるを以て去る十五日釜山地方法院檢事局に送りたり(釜山)

安東縣の初雪

一日拂曉より降雪あり積る事三寸本年の初雪にして昨年に比し二十日後れたり(安東縣特電)

カフエーがすき燒屋に
變つた店の裝ひと給仕女の身姿

南大門の大通りが次第に坦になつて來たのにつれて此の二三年、その附近から本町通り、又は本町通りに近い町にその町名や麥酒の名を冠せたビヤホールやバアー、カフエーなどが大分出來た

◆客足の多い のは春から夏に掛ての間で氣の利いた宵の酌竹や杉皮や幽柴で結び又は淡さりした鉢盛かなにかで表構へを飾り綺麗な給仕女を置いてビール、果物、アイスクリーム、氷、サイダーなどで客を呼んでゐるが是等のものが非常に流行て來たのは日本麥酒對帝國麥酒會社の麥酒戰の結果會社が應援に力瘤を入れてその後援となり店を出さしたのもあるが多くは近年カフエーの流行につれて

◆手輕を喜ぶ 一般の要求に應じて生れて來たもので今では是等は全く無くてはならぬものになつてしまつたのである然かし彼等の全盛期は多くは夏であつて愛嬌のある女に思ひ切つて派手な姿をさせ白いエプロンでも掛けさせて同じ派手稼業に生きる料理屋の仲居達とは又變つた趣きを見せたのだが、此の頃のやうな冬空になつて來てはビールを呼ぶ客も

◆段々薄れて ゆくので何處のビヤホールでも門構へから内部の開放的なのにも手入れをし酒も洋酒や日本酒を置いたり料理も洋食ばかりで無く平壤肉の鋤燒だの鮨鍋だの寄せ鍋などいふ立看板を出して鳥渡淡厚な所を示してゐるのはよく本町通り邊で見受けるが、給仕女の身姿も變りエプロン臙の輕快なのに比して餘程落ち着いた扮裝をさせておくが彼等が客席にかける

◆收入は夏程 でもなくそれに日本酒に親しむ人はチビリ〳〵と呷りながら始終傍に引つけて置くので弱るさうである、又名の通つた大きな所では絕對に然ういふ事は無いがしかし警察ではその雇女の數を二人とか三人とかに制限してゐるさうである

殺人狂捕はる

殺人狂として人々を恐れしめたる入江三郎は一日朝大阪にて捕縛されたり(大阪特電)

來り見よ 繪の大陸
二日より星州畫會

二日正午より及び三日午前九時より南山町本社來靑閣に於て開催する星州洋畫展覽會の陳列作品は凡そ八十點ばかりであつて其の中の重なる作品は北京城外の眺望、

‖駱駝隊の‖ 沙漠旅行蒙古人の生活數點、西藏の風物數點、松花江の上流深林地、長白山系の密林、萬里の長城數點、ゴビ沙漠の砂丘、廣漠たる平原に放牧されたる無數の羊群又は西伯利亞の雪景等雄大なる作品

‖頗る多く‖ 珍らしき畫としては山海關にかける蜃氣樓哈爾賓練兵場の夕暮等であらう山海關は古來蜃氣樓の出現を以て聞ゆ秦の始皇帝も亦蜃氣樓を見んとて海島に行幸して

‖十數日を‖ 其處に暮して居つたと云ふ秦皇島の古蹟のある星州畫伯は親しく實見して寫生したものである洋畫には全く觀ざる處の畫である

‖哈爾賓の‖ 練兵場は志士沖禎介の最後の場所を描いたものであるが曠漠たる北滿洲の平野の有樣が目の前に浮んで來る此の他安奉沿線の風景及び朝鮮の風物を描いたものも

‖出陳され‖ る滿蒙を研究せんとする者大陸の自然に憧憬する人達の爲めに益する處尠からざるべし此れに由つて吾々日本人に必要なる滿蒙の

‖概念を得‖ るべく本社が此の展覽會を主催するの趣旨も亦此處に在るが故に學校生徒の來觀は最も歡迎する處である希望の向きは混雜なきやう小人數宛に隊伍を組みて來觀せられたし

強盜六名逮捕

去る十九日夜慶北義城郡春山面大沙洞金在麗方にては何者にか葉煙草十束を竊取せられたりとの屆出に接したる同地警察署にては犯人搜査に著手し居れる中一巡査補が該賊は新興洞金謝意(二五)等の所爲なるべしとの事を探知し義城署の巡査數名出動しまづ金謝意方に赴きたるも彼は不在なりしを以て家宅搜査を行ひたる結果十月三日軍威郡古老面にて竊取したる衣類等を藏匿し居れるを發見し家人に就て嚴重取調べたる結果々端緒を得て前記金謝意外十餘名合同にて各地を荒らし廻り居る事判明し同人及び安東郡生れ金尙基(一[illegible])金起洙(三二)金起潤(三二)李達秀(二[illegible])鄭基秀(二三)の六名を逮捕せしが中金起潤は頑強に抵抗し十數回間警官と格鬪せしも遂に逮捕せられたりと

縛上げて強奪

京畿道廣州郡西部面春宮里醫生趙漢星方に十月二十五日忠南大田郡儒城面德明里金莫煥江原道春川郡北上面新板里洪在德の三名が金員を所持して宿泊し居るを探知したる楊平郡西面龍潭里生れの鄭煥玖(四七)廣州郡九川面高德里生れの鄭夏錫(四〇)の兩名は共謀して同夜谷小刀を携へて漢星方に侵入し家人全部を縛り上げ兇器を示して脅迫したる上鹿の角一本(三十六圓)を始め現金衣類等(六十二圓)を强奪逃走し鄭煥玖は水原郡鳳面上[illegible]里李元明方に潛伏中を又鄭夏錫は自宅に於て何れも廣州憲兵分遣所の手に逮捕さる

大正親睦發起人會
▽會長其他役員の推薦

大正親睦會は既報の如く二十九日午後九時より明月館に於て發起人會を開催し衆望を以て子爵趙重應氏を會長に趙鎭泰氏を副會長に阿部本社長を顧問に推薦し更に芮宗錫、劉猛、鏡、洪忠鉉、翟闌、金鎔、方台榮、史一煥、安淳煥、中村健太、諸氏を幹事に韓相龍、朴齊斌、白完爀、金重煥、金鎔濟、鄭求昌、朱性根、金容泰、趙秉澤、金漢奎、劉秉珌、村承慶、閔鐸植、安商浩、鮮于日、李康燦、嚴柱益、翟[illegible]、尹致昊、白潔洙諸氏を評議員に推薦す

讀者文藝 (一等には五十錢の複勝券を呈す)

▽謎『午砲と掛けて』

○芝居の夕立と解く心は音で知れる(一等) 龍山 正木生

△玩具時計と解く心はいつも十二時 龍山 漢口 初星

△義經の花と解く心は富樫御前(時は御暗)なり 釜山 山本生

△京城大和町京城日報社と解く心は十二時(字に鳴る) 京城 三輪邦夫

△姫路の不養生と解く心は頭痛の因になる(南山の岩に鳴る) 龍山 松本生

△上手の指物師と解く心は少しも狂ひがない 義州 松月

△干支と解く心は十二支(十二時)でなる 龍山 多美郎

課題及び募集規定は欄外にあり

總督府醫院解剖祭

總督府醫院にては二日午後三時より東本願寺南山町に於て解剖祭を執行の筈

騷擾事件公判

過般平北龍川郡楊西面法興山に於ける金鑛採掘に對し祖先の墳墓を凌辱するものなりとして多人數を糾合し暴行を演せんとして拘引せられたる所謂揚西面騷擾事件の被告人中十三名のものは己に檢事局に於て免訴となり張文臨金基俊外[illegible]人のみ公判に附せられたるが去る廿九日を以て各罰金三十圓に處せられたり(新義州)

合鍵で金庫を

全北扶安郡扶寧面西外里姜姓女方雇人井邑郡古阜面新設里生れの徐仙女(一七)は高敞郡興德面乾局里亡姜福萬妻尹姓女(二〇)と共謀し本月十八日午前十一時頃姜姓女が外出不在中合鍵を以て金庫を開き姜姓女の所有金百八十圓を竊取したる爲め兩名は茁浦警察署に檢擧されたり

歲暮の景氣
吳服商は何う觀る乎
‖近寄る賣出し‖ ▲老舖の準備

商家一年の決戰期たる年の暮れになつた、歲末の景氣はどんなものかと先づ本町通りの吳服屋さんを訪ねて見る、

▼賣り出しを 始めたのは三中井と丸一とます屋の三軒あとの山口、三越、ちちぶや、唐川、まるさ、丸幸なんどの老舖も準備をさく〳〵怠りなく、昨今何れの店舖も寄せきれや多物に婦人の客を呼んでゐるが先づ今日から賣り出しを始めた三中井と老舖で納まり返つた山口吳服店とのはなしは恁うである、今年の景氣は餘り飛びあがる程に

▼好景氣とは 行かずとも決して惡い景氣ではないやうである、ことに昨年の共進會景氣で引立つた歲暮の景氣よりも今年の方が勝つて居るのは確かに京城に人が増ゑた證據である、しかも數年前の浮腰時代と異りモウ昨今では永久朝鮮を故郷とする土著の人が増ゑたから景氣は年々惡くなる氣遣ひなしと見てよろしい、それに米價の騰つたと

▼鑛業が盛ん になつたと御大禮後の婚禮が多かつたと等も好景氣の原因であらうが何よりも人の多くなつたとは其の第一の理由である、それに從來朝鮮に居る人の買物は一般に内地よりも奢つて見ゑた、殊にケバ〳〵しい華美な一時的のものを歡ぶ傾向があつたが此の頃では此の風習が一般に堅實な風に幾分後ち〳〵までの爲めのよいものを求むといふ傾向になつた、また最も

▼多く賣れる のは銘仙類で、婦人物としてはお召が一番よく賣れるとのこと、しかし今年は氣候が少し遲れたやうで幾分とも多少賣行きに影響したのであるがいよ〳〵廿日過ぎから白熱的の大賣出しとなれば眞當の景氣がありませうとのはなしであつた

灯ともごろ

▲東京の愛媛縣人會は精養軒で秋山軍司令官の爲めに盛んな昇進の祝賀會を催した相な△席には勝田前鮮銀總裁、古谷久綱氏などの顏振も見ゑたが殊に俳人内藤鳴雪翁は大將幼時よりの苦學の詳細を敍した末に曰く『秋山氏は大將にして小學訓導の資格あり』と▲龍山の立花師團長の應接間には『魔界一名〈路難の入口』と題する名畫がかゝつて居る▲蛇の首を描いた陰謀鬼から眼球の飛び出した張耳飛目鬼、消鬼、財鬼など奇抜な面々が描かれてあるが中には牝鬼、口舌鬼といふのもある此の名畫は明石將軍の筆になるものである▲それにモ一つ傳山の筆になるむつかしい文字の一幅は王羲之の文字を摸寫したものでこれは誰れにも文字が讀めぬから此所に來る人を試驗する爲めにかけてあるのぢや……と將軍のはなし▲何と讀みますかと伺へば『君も試驗されてるんだ』▲九州特別大演習に第六師團の健兒を提げて柴將軍の第十二師團と對抗した明石將軍は此の程立花師團長の許に一大雄篇を寄せて曰く『肥薩一萬の貔貅を提げ、鞍に伏り三更筑流を渡る、劔氣稜々大藏の下、拜山の明月故郷の秋』と△これを見た立花將軍は白水參謀長と共に筆を持ちながら『一萬の貔貅を十萬として鞍に伏るを馬を躍らしてと訂した方がよいやうに思ふ△猶ほ拜山の明月は月明敵を逐ふにしたらよからうと今明石に云ふてやつてる處ぢや……』次に立花將軍の傑作は『天皇閲武筑肥原、一碧秋空錦旆飜、兵氣不騷霜氣慘、滿山紅葉繞龍轅』△それから朝日山御野立所の作に曰く『縹然旭日山千里一瞬間、飛躍萬車馬、鳳鳴震碧灣』……註に曰く鳳鳴は飛行機がプロペラをブン〳〵言はせて飛んでる形容であると

書畫骨董入札
▲十二月二日下見、三日正午開札
南山町三 佐々木聚古堂 電二二三

神社とお寺と教會

○西本願寺(若草町) 一日午後七時半より節行布說教あり猶ほ二日午後二時より婦人例會あり松原總長の說教あり

○東本願寺(南山町) 一、二、三日午後七時より三日間、二日午後六時半より信友會の報恩講あり

○妙心寺(長沙洞) 臘八接心は毎日午後六時半より九時半まで修行する筈にて、臨濟宗會員以外の掛錫にして參禪するもの多數ある由

○開教院(本町三) 一日午後一時より觀水道布教所に於て婦人教會あり 二日午後七時より同布教所に於て茶話會ある由

○仁川美以教會 三日午前九時より日曜學校同十時より勝邦說教題は仕の生涯にして午後七時より保通說教題三種の生活說教者關口牧師

全鮮虎疫調査 警務總監部

[illegible]調査に係る十月二十五日より十一月[illegible]

京畿北道 慶尙南道 黃海道 平安南道 [illegible]

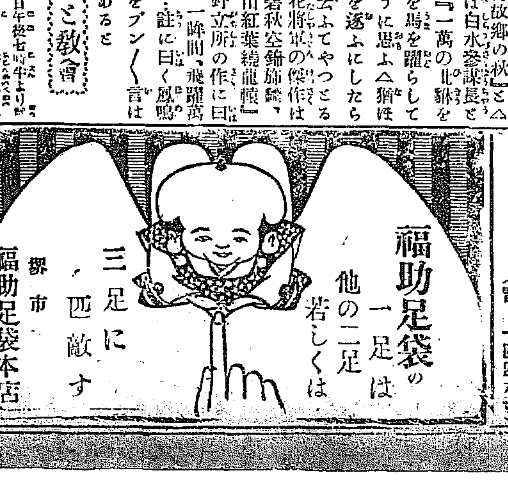
定直ちに隔離病舍に收容されたり又仁川寺町九番地向山から(二二)は臘窒扶斯と確定し三十日隔離病舍に收容

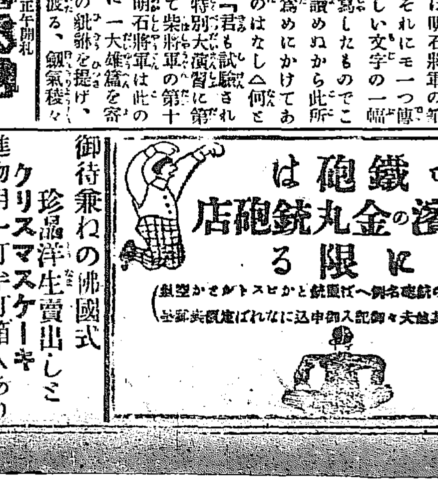
二等(三十四名) 水上秀夫、今城友四郎、黑江[illegible] [illegible]

讀者文藝課題及募集規程

懸賞募集規程 ▲用紙は端書又は郵便の洋紙一枚毎に紙上の雅號又は假名の外に住所氏名明記の事▲賞品は一[illegible]

天氣 曇後小雨雪 (十二月二日[illegible])





御待兼ねの佛國式
珍品洋生賣出しとクリスマスケーキ
進物用一打半打箱入あり
京城本町一丁目
いろは菓子舖 (電一四四六番)

年末年始贈答品新荷着
▲漆器、銀臺、針箱、衣桁、孔臺、碁將棋盤、神佛具、柳行李、荒物、其他各種家具類卸小賣
㊎丸金家具店
釜山辨天町二 電話一〇六

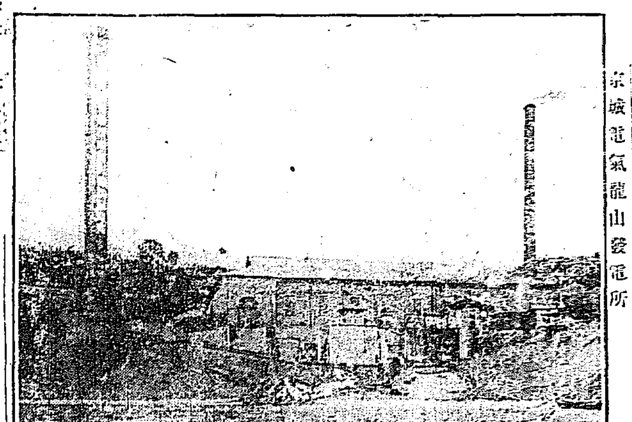
朝鮮 瓦斯電氣界

朝鮮電氣界の霸者 京城電氣株式會社の沿革

▲電氣界一新　朝鮮に於ける電氣界の霸者京城電氣株式會社は明治三十八年中男爵澁澤榮一、工學博士高松豐吉、久米良作、大橋新太郎以下殆んど財界の有力者を網羅して發企せられ始めて京城に於て瓦斯事業を營むを目的とし資本金を三百萬圓とし明治四十年六月日韓瓦斯株式會社として認可を得創立事務所を東京瓦斯株式會社内に設け同四十二年秋京城に於ける豫定の工事完成十一月三日天長の佳辰を卜し初めて京城全市に燦然たる瓦斯の燈光を供給し得るに至りたるが是より先き京城には米國人コールブランの經營に係る韓美電氣あり電車、電燈、電話等電氣動力の供給一切の企業を獨占し居れる爲め邦人の不便一再に止まらざりしが時の會社創立委員長澁澤男爵以下非常なる苦心と熱心なる盡力とに依り同四十二年八月同會社の事業及び權利一切を買收し日韓瓦斯電氣株式會社と改稱して瓦斯、電氣、電車の三業を經營するに至りたり

▲根本的革新　爾來巨額の資金を投じ根本的一大革新の實を擧ぐるに至りたるが日韓併合以來國力の伸張と共に同會社の事業も亦益々進運に向ひ電氣鐵道の擴張を促し瓦斯電燈の如き需用急激に增加し事業擴張の切なるを認めたるを以て同四十四年二百萬圓を增資して六百萬圓と爲し先づ電車にありては新線の敷設復線工事の施行等延長實に二十八哩餘に達し車輛の新造機械の增設をなして面目一新隔世の感あらしめ大正四年京城電氣株式會社と改稱せり

▲瓦斯製造所　輸送の便供給上の利より龍山漢江河畔に設置し最初一日三十萬立方呎供給の設備をなしたるも累年瓦斯の需用增加し其裝置を以て滿足する能はず大正二年更に同容量の機械を增設し尙ほ外に三十五萬立方呎瓦斯貯蓄一基新設をなせり



京城電氣龍山發電所

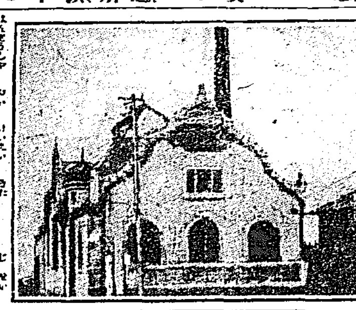
▲京城發電所　は麻浦漢江河岸と東大門との二箇所にありて運轉したるも便宜上麻浦發電所の擴張を計畫し五百「キロワット」タービン發電機を据付け東大門發電所を閉鎖し同四十五年三月及び大正二年四月更に各千「キロワット」タービン發電機一基宛の据付を看たり

▲電車大改良　は明治三十二年四月始めて韓美電氣會社に於て南大門、淸凉里間同三十三年鍾路龍山間三十九年に西大門麻浦間の敷設を爲し此延長十一哩に過ぎざりしもの四十二年の買收以來軌條を六十封度に變更し猶新線路及び復線工事計畫を立て新龍山東大門間、黃金町光熙門間、西大門鍾路間を何れも復線となし大正二年十二月には往十里線畢線一哩三十三鎖の營業を開始し其他待避線の增設橋梁の改築電線路の補修等完成し大に玆に面目を一新せり

▲幹部の顏觸　社長として東都斯業界の重鎭大橋新太郎氏を戴き專務取締役としては運輸交通界の實務家岡正矣氏あり本年八月定時株主總會に於て職制改正の結果幹部に異動あり總務課長支配人木本倉二、營業課長技師島田房太郎、會計課長參事武者鍊三、庶務係長參事山內篤、仁川支店長參事林慶太郎氏等の顏觸れを看るに至れり

京電併合の仁川電氣 整理發展しつゝある有望の情況

仁川に於ける京城電氣株式會社支店は元仁川電氣株式會社と稱し去る明治三十九年の創立に係り爾來六年有き營業を繼續する事となり經營の才に卓絕せる島田兼任支店長は業務の刷新を圖り機械は元仁川電氣時代の百「キロワット」二臺に新たに豫備として百二十「キロワット」一臺を增設し電氣方式は從前の儘となしたるも同地商工業の發展は駸々乎として繁榮に赴き其營業成績の如き本年三月に於て既に十燭換算約九千燈に達する好況を呈したる結果は機械增設の必要と電氣方式變更の急務を認め原動機其他の据付を完了し晝間動力等の供給等も漸次需用の增加を見たるが本年八月同店總會に於て幹部の異動行はれ島田兼任支店長は京城專任營業課長に榮轉し更らて京城本社よりは參事林慶太郎氏支店長として新任煩雜なる事務も敏捷確實に處理されつゝあり



京城電氣仁川支局

朝鮮唯一の水力電氣 元山電氣株式會社の近況

朝鮮に於ける河川の水量は高低の差甚しく且つ勾配緩かにして落差不充分なる爲め兎角水電事業振はざる中に獨り元山陽地洞に本社を有する元山電氣株式會社（資本金十五萬圓拂込濟）の振興を看るは大に人意を強うするに足る者あり同社は去る明治四十五年三月の成立に係る其起源は元山の元老濱濱忠太郎氏等創立者として[illegible]成立し發電水力を元山より北三里府內面地界洞陽日川上流に取り有效落差百卄六尺理論馬力三百五十八を以て目下五十キロワット發電機一臺を裝置し元山市街及附近一帶に供給しつゝありしが近時京元線の開通以來人口著しく激增し隨て一般的に急激の需要を喚起し到底今日の設備にては不足を感ずるを以て更に七十五馬力の水車一臺並に發電機一臺及び冬季間水車補助をして吸入瓦斯機關發電機各一臺を增設したれば現今の三倍以上の發電力を有するに至りたるが最近第八回の決算に於て株金拂込額に對し一割二分の利益配當をなし現在積立金七千六百餘圓を有する盛況を呈し居れり同社が創立日尙ほ淺きに不拘今日の如き好績を擧げ得たるは偏に濱濱社長以下專心經營に努め奮闘努力の結果に外ならず朝鮮電氣界の一大福音と云ふ可し

元山水力電氣の水源池

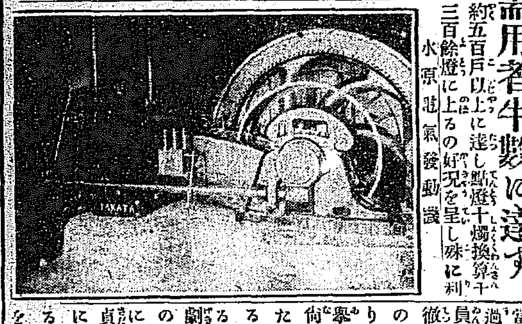
最も有望な木浦電氣 長足の進步約一割の配當

木浦電氣株式會社の所在地木浦は朝鮮沿岸中の良港にして風景佳絕氣候溫和背面には湖南平原幾十萬頃の沃野を控へ鐵道と榮山江の水運との地方交通に便なるのみならず前面一帶の遺利無盡藏と稱せらるゝ多島海を控へ海陸の物資豐富にして商工業とも急激の發展に伴ひ明治四十四年同地の電氣事業創立の機運に乘じ資本金二十萬圓株式組織の請願をなし同年六月二十二日許可直ちに發電所及び機械の据付等に著手大正二年二月四日開業せるが其當時需要戶數は僅かに二百五十一戶燈千百十一燈に過ぎざりしも專務取締役松井邑次郎君が一意專心事業の發展に努めたる結果大正三年三月第五期決算の折に於ては取付燈數千八百九十三燈需要戶數三百九十五戶に達し其利益配當の如き一株に付き六步の配當を爲すの成績を擧げ大正四年第七期決算迄引續きたるが其間德富仙太郎君は釜山瓦電會社より技師として入社し多年電氣界に於て涵養し得たる經驗と手腕とを以て熱心業務の發展に努めたるも全社員勉勵の效果空しからず大正五年三月第九期の決算に於ては需用戶數五百二十二戶取次燈數二千三百三十九燈を有する長足の進步を示し其利益配當の如き一株に付九步強の配當を爲すの好成績を示し新會社として其基礎の確實と營業の有望は蓋し刮目に値するものあり

木浦電氣發電所

順調に向へる水原電氣 鮮人需用者半數に達す

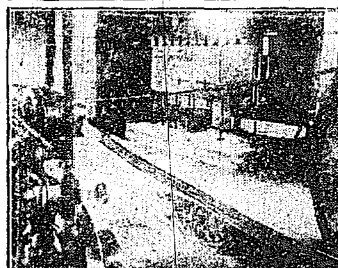
水原電氣株式會社は大正二年の設立にして資本金六萬圓原動機は英國製橫置式單汽筩吸入式瓦斯發動機馬力數最大七十馬力調製器スロットリング回轉數二百十回點火裝置電氣點火一臺にして爾來極力工事を急ぎ大正三年三月營業開始を看たるも水原の市街は遠く停車場を距て更らに勸業模範場其他官公衙等は反對の方面に散在するを以て架線の延長も實に九哩半を超ゆ需要戶數は開業當時僅かに三百戶に過ぎざりしが老練にして堅實なる專務取締役香山弘氏を始め常に營業の實務に當り忠實熱心なる增田書記以下協同一致各自分擔の衝に當り只管擴張に努力したる結果約五百戶以上に達し點燈十燭換算十三百餘燈に上るの好況を呈し殊に利益配當の如き拂込一株に付き五分配當をなす好成績を擧げ得たるは寔に敬服に値するものあり特に同社の誇りとするは需要戶數五百戶の內二百五十戶は鮮人需用者にして以て水原に於ける鮮人市街の殷賑なるかを想像し得べきなり猶ほ水原は水原郡廳、地方法院支廳、模範農場、慈惠醫院の所在地にして附近廣漠たる沃野を控へ從つて大農的農事經營者多く地形は四通八達の要衝なるが故電氣事業の如きは今後地方の發展に伴ひ一般に貢獻すること益々甚大なるものある可し



水原電氣發動機

清州電氣の活況 一現在點燈數一千燈

馬政院を距る東北四里三十丁忠淸北道廳の所在地に於ける淸州電氣株式會社は資本金八萬圓明治四十五年六月十五日營業の開始をなし大正元年九月卅日發電所、倉庫、舍宅の新築大正二年三月卅一日機械の据付電線路の架設を終り同年九月卅一日を送電を開始したるが原動力は吸入瓦斯發動機英國「ウエスチングハウス」機械製造會社製品にして橫置單筩式其氣筩數は一基汽筩の直徑十六吋八分の三衝動馬力七十四を發生し點火裝置は電氣點火とし瓦斯發生裝置は前記吸入瓦斯發動機にして瓦斯を供給すべき發動機を運轉せしむるに充分なる容量を有し燃料はコークスを使用し其他の設備最新優良なる附屬機械器具等を完備せり最初同社の開業當時の如き點燈僅かに五百十三燈に過ぎず從つて收支相償はざりしも社員を擧げて銳意營業本來の目的を貫徹するに努めたる結果毎期百燈宛の點燈增加を見大正四年上半期に至りては七百七十五燈に達する好績を擧ぐるに至り前記缺損の補塡を行ひ尙ほ多少の繰越金を見る成績を示したると同時に經營上に於ても深甚なる注意と緊密なる調査研究を怠らざる結果大正四年の下半期に於ては急劇なる需用の激增を見更に本年三月の第三期末に於ては點燈數一千餘燈に達したり取締役社長として有城貞次郎專務取締役香柳八百造兩氏共に地方に於る名望家にして其堅實なる經營振は益々同會社將來の發展を期し居れり



清州電氣發電所

京城電氣株式會社電燈工事取扱店
合名會社鈴木商店京城出張所機械部代理店
浮田裝電社朝鮮總代理店
木村商會
京城本町三丁目貳番地
電話 一三六四番
營業科目
電氣諸工事設計請負。合名會社奧村電機商會發電機販賣。一般廣告裝飾電氣用具諸機械販賣。ウキタ特許電熱器具販賣。

三菱合資會社朝鮮賣炭總代理店
谷口鐵工場代理店
日本電線株式會社代理店
寶田石油株式會社代理店
香蘭合名會社代理店
日本電氣黑鉛株式會社代理店
京城南大門通三丁目(電話長三九〇番)
泉商會本店
仁川新町二丁目「電話八五八番」仁川出張所
釜山辨天町一丁目「電話一七五番」釜山出張所

商況

京仁公債直取引（前日との比較）

九七、一〇　八二、四〇　九七、〇〇

京川任米特

一四二四八　一七一六二二　二四　九二

東京期米特電

一二月限　八一五　八三五　八二四　八二五

大阪期米特電

一六八七　一七三四　一七三三　一七六一

下關期米特電

當限　中限　先限　[illegible]

雜報

綿布類の其後

十一月末不勢な辿り大阪相場三銘現物は六圓六十五錢を以て越月せしが今久別報によれば上海及北支那の各方面共に本品の六圓七十五錢迄附隨し來れりと傳へ月變りに支那輸出狀況に多少變化を來さん傾向にて底意は依然强味を帶び細布の如きは此際更に幾分値上げを實現せんかの形勢なるが粗布に至つては過般大井打の瓦落相場を演出したる丈けに手持筋の恐怖的警戒より今尙一依二依の小口割安賣の跡を絕たず之が爲め一般人氣を阻害する事少なからず會社側に於ては一段建値引上げを望みつゝあるも目下の事情之を許さゞるのみならず市中相場は尙百七十五六圓以上に據け發居れる成行なり

燐寸は品無の姿

昨來印度支那向輸出の好調なる矢先內地は需要期に入りしため著しく實需を喚起せるより各社は全製造能力を發揮し生產に力めつゝあれども抽木製造箱貼り等は一般工業の殷盛なるに連れ勞働者は勞銀の低廉なるため有利なる他業に轉じたるを以て此等の製造に障碍を來し現下の狀態は勞銀の値上げをなし婦女を養成して生產を急ぎ居れども到底需要を滿す事能はざるため今は殆ど新規注文に應ぜざる姿なるより買入側は値段に頓著せず買焦らんとするの奇現象を呈し居れりと

牛皮漸く買進む

牛皮中氣迷ひ買控への裡に久しく沈靜し商狀を持續せし中皮も漸く大阪筋の買氣を催ふし來りしもの如く相場は今尙格別變動なしと雖も出口の注文に商內稍活潑となれり

大皮　七十五、六圓　は米國皮革類の暴騰と底革等の名稱に挑底より益々好聽を呈し相場は目下正味の中皮にて七十五六圓を唱へられつゝあり本品は中皮圓に比し出廻り僅少にして當の如く手廻らずと

皮革類の現況

皮革類は英國政府の買入れ行はれ米國皮及び底革を初めキツド革にボツク[illegible]

南大門の廻穀

△朝鮮一等白米(常用)　十六圓四十錢
△同　十六圓九十錢
△同二等白米(常用)　十六圓
△深川大豆　十一圓八十錢
△同　十一圓八十五錢
△倭舘大豆　十一圓八十錢
△鎭南浦大豆　十一圓七十五錢

仁川現物市場

烏山白米	一二二叺	長湍籾	一八〇〇叺
水原白米	二八叺	成歡籾	三〇〇叺
仁川玄米	三五五叺	金村籾	三五〇叺
平澤玄米	一三五叺	天安白米	五五叺
天安玄米	一四〇叺	西井里白米	四〇〇叺
烏致院白米	一九〇叺	金村籾	五六〇叺
永登浦籾	九五叺	郭山胡麻	三五叺
水原玄米	五七叺	宮川胡麻	三四叺
仁川玄米	三一四叺	金村籾	二八叺
新灘津籾	二四三叺	命村籾	二七叺
烏山白米	一五四叺	烏山白米	三六叺
全義白米	五五叺	烏山籾	四〇叺
鎭南浦籾	二七叺	鶏菜津籾	三六叺
小井里玄米	七五叺	烏山白米	五六叺
平壤胡麻	一二〇叺	烏山玄米	九八叺
天安籾	一八七叺	烏山白米	五六叺
天安籾	一八六叺	烏山白米	七九叺
仁川胡麻	五四叺		
議政府籾	一八〇叺		

▲籾入津二千餘俵　氣配は不變强人氣を唱へ居れり
▲正米入津二百餘叺　氣配は籾高に反し弱人氣を唱へ居れり
▲大豆入津千五六百叺　氣配は保合を唱へ居れり

下關消息

▲朝鮮白米は强硬　其後百三十叺の廻著に過ぎざるのみならず昨紙既報の如き事情の下に各米主の意嚮强きに依り相變らず人氣强硬を極め之れが爲め々の出來値は左の通りなり
▲大豆は弛ます　其後新義州產二百六十叺鎭南浦產九百三十叺倭舘物四百十二叺大邱產百三叺元山物二百叺宮川物六百叺等の輸入ありしか中には先約定物の加はり居て實物としての出廻りは左程多數なりと云ふにあらざると依然產地の人氣安からずして不引合を唱へ各手持筋の賣り腰强きに依り市況弛まず之が爲め々の出來値は左の通り也
▲小豆は格別狂はず　本品は依然產地との比較上不引合を唱へ各手持筋の賣り腰强きに依り頃日來賣れ行き鈍なるにも拘はらず別段人氣狂はず之れが爲め々の出來値は左の通りなり

眞棉續て强硬

期に入り減切賣需起り殊に地方產の絕細して荷動き活潑なるに反し產地原棉商の品薄は漸く産出減少せるため出廻り捗々しからず爲めに日上進み讓り內地相場は其の後更に十圓乃至十五圓方の昂進を報じたり

一躍四十圓內外

部契約成立せし趣にて本年七八月頃迄の製品全部は咋報の如くなるが技術皮革界は之が爲め一大變化を來し鞣皮の如きは目下和製の外米國革は全く品切れにして本月二十日前後日本丸にて若干輸入の豫定なるが賣出し値段は二百圓見當なりといへば前回輸入の分に比し一躍四十圓內外の騰貴を見るに至るべし

既に値上實行

現今に於ては既に値上實行せしにより鞣皮の騰貴もくる事となり打擊を受けつゝあるキツド一坪十錢豚皮二割四分の如き製ボックス十錢方にてキツド皮の如き此處數日中に更に十錢方の引上げ模樣なり

赤染料更に昂騰

染料は其後依然として賣行き鈍狀なるも人氣は强調を帶びベンチンの如き在品の缺乏と內地相場の暴騰を受け特に强硬の商狀を呈し居れり市中相場は目下百七十圓の商値を唱へ居れり今後尙一段の上押しを豫期せらるゝもの如し

仁川期米

十二月一日　大阪天候

前場寄付　當限十六圓八十錢　大阪寄付十六圓八十錢

十七錢昨止より一錢安

七錢上鞘の入電二十六圓

節五十一錢安移り六十一錢上鞘十七圓

節四十四錢と上伸し

寄付新甫一錢下

鞘十一圓八十錢と

節四十二錢七

六節五十一錢跳ね返

[illegible]

一日前場　當限十二圓四十九錢　出來高五萬五千石

▲(下)へ買ふ　前場同店より新規に乘替に買ひたる玉數無慮一萬二三千石に上りたりとの事にて大に市場の注目を惹いたり
▲(三)大に買ふ　前場同店より買ひたる玉數無慮一萬二千餘石の賣ありたりとの事一面二千餘石に上りたりとの事
▲(イ)大に買ふ　前場同店より買ひたる玉數九千餘石に上りたりとの事一面六千餘石の賣ありたりとの事市場の注目を惹いたり
▲(釜)能く買ふ　前場同店より乘り筋に買ひたる玉數五千餘石に上りたりとの事
▲(仝)の商內　前場同店より買ひたる玉數一萬餘石に上りたりとの事
▲(リ)の商內　前場同店より買ひたる玉數三千餘石に上りたりとの事
▲(中)の商內　前場同店より買ひたる玉數二千餘石に上りたりとの事
▲(平)め商內　前場同店より賣りたる玉數千餘石に上りたりとの事
▲(至)の商內　前場同店より賣りたる玉數五六百石に上りたりとの事
▲中限下げ澁る　今前場大阪の乘替に買ひ過ぎたる當地は十八錢と押したるも他筋の乘り替に能く買ひ下げ澁りたり
▲乘替へ賣りならん　前場同店より賣りたる玉數に依る
▲十一限解合　前月末の締會に於て十一月限受渡の合意解合成立し先限へ附け出したる當方(イ)六千九百石(中)三千四百石合計一萬〇三百石である受渡高

實際の受渡高

一萬八千四百石

發會大盛況

今發會は新規の中先乘り替に滿く商內行はれたるに是大阪の纏動を與へたると合筋の反抗したるに依るならん斯る成行にて立會毎に大盛況を呈したり

中限の大問題は先限へ推移するや否や今後の米界こそ刮目すべし

市場零聞

發會小變動

大阪の二十七錢上鞘入電に跡安を受けて當地は一錢下鞘の十二圓八十錢と會したるが昼より大買物現はれ大阪の跡比落して七十六錢と上伸したる折柄(イ)より大量の賣物現はれたると(ぐ)へより賣物多く結局七十八錢と返したる賣物多く市況は大阪の不勢に連れ

大阪の不勢に連れ

人氣は賣過り來りたる(ぐ)の如く

前場の手振

今前場同店より(先限の)商內を左に列記す

▲今大に賣る　前場同店より中限を大に賣り先限に向つて賣りたる玉數無慮一萬五千餘石に上りたりとの事一面三千餘石の買ありたるも大に市場の注目を惹いたり
▲(八)に賣る　前場同店より賣りたる玉數九千餘石に上りたりとの事一面五千餘石の買ありたるも大に市場の注目を惹いたり
▲(日)能く賣る　前場同店より賣りたる玉數四千餘石に上りたりとの事一面小二千石の買ありたるも注目を惹いたり

仁川米豆取引所

一日の二月限

寄付	十二圓八十錢
止め	十二圓七十八錢
高値	十二圓八十錢
安値	十二圓七十四錢
出來	九千百石

平均値段

一節	十二圓八十錢
二節	十二圓七十一錢
三節	十二圓七十八錢
四節	十二圓七十九錢
五節	十二圓七十八錢

賣買取組高
十二月限　七百五十石
一月限　八萬五千四百石
二月限　[illegible]

十三日(日)京城、仁川、群山、木浦、釜山各地 ……
一番地堀內宗吉氏長女よく子は豫ねて仁川病院に入院中三十日猩紅熱と診
十二月一日午後時釜山入港高麗丸一二等客(四名)加久間岩次郎、大野萬夫、轟部清太郎、三浦圓三
三十日午後九時釜山入港對馬丸一二
△一口郵便預金(京城と其他)
本紙に掲載の物價表内に廣告者には五十錢書籍券を呈す(但何書何號と明記に限る)

宮本武藏

第二百三十二席

桃川如燕口演　浪上義三郎速記

拙者の正體見れば枯尾花と云つて幽靈なぞといふ物があらう筈はない、治右衛門の家に附け込んで獲物が惡サをしたのを是を退治て彼を助け渡邊清左衛門方へ引取りましたが、猶本間久四郎の許に立歸つて此の話しをいたし、最早餘り永びくから此の地を引拂うと遂に本間方を辭して庄内を立出、それより越後國新發田へ參り溝口伯耆守城下へ泊り、見物をしながら同國新潟へ出て參りまして新潟の旅籠屋吉野屋竹次郎方へ宿を取つて諸方見物をいたしましたが、是までは別段にお話しもなく同國長岡へ參つて、茲に一つの奇談といふのは善人が鬼になり鬼が善人になつたといふ珍らしき話しがございます此の長岡は七萬石の牧野備前守の領地で、牧野の家老に長岡外記といふ人がございますが、是は水野日向守勝成の縁家であるから此の方へ訪ねて參りました、長岡外記も久しぶりのことであるから大層喜んで是を止め置き厚く待遇して居ります、此の城下に源兵衛といふ者がありましたが、一代に身上を拵へて當時は穀問屋並に質物を取り金を貸付けるを業として居りまするが家號を長岡屋と附けて繁昌して居りますが、身代は日に増し殖ゑるばかり、何故かと云ふと高利の金を貸付けて取立る、借りる位だから期月が來ても返せないと鍋釜蒲團着て居る衣類まで引剝いで持つて行く、義理慈悲でいふことは少しも知らず、酷いことをするから近所の者が彼は人間では無い鬼だと云ふ、乃で鬼源兵衛と名を附けてしまつた、何と云はふと他人には構はない己れが懐中を肥せば宜いと云つて居る、此の源兵衛の家を借りて居りまする者の中に日雇稼ぎ喜兵衛といふ者がありましたが、朝起ると寢るまで阿彌陀様を念じ南無阿彌陀佛〳〵と云つて居るから乃で近所の者が、彼は佛喜兵衛だと云つて是を名としてしまつた、頗る堅い男で決して不義理なぞはいたしません一生懸命稼いで居る、或日源兵衛が喜兵衛を呼んで 源『喜兵衛や、お前は堅い男だ、俺の持家に十三年も居るが決して家賃の滯りは無い、月の晦日には必ず持つて來なさる、感心な男だ、お前の近所の者も大勢あるが一人として晦日に店賃を持つて來たものは無い 喜『私は借が大嫌い、貧乏はして居りますが借の無いのが自慢でございます 源『それが何よりだ、人間は不義理さへ無ければ他人に頭を低げることはないから、まア一生懸命に稼ぎなさい 喜『有難うございます』と云つて立歸りましたが源兵衛は大層感心をして居りました處が此の喜兵衛相長家の者に對ひ、喜『扨て皆さん、私は常に阿彌陀如來を信仰して居りましたが、昨晩不思議な夢を見ました ○『へエー甚麽夢を御覽なすつた 喜『他でもございませんが、阿彌陀如來が私の枕頭へ御出現になりまして、如何に喜兵衛其方が深く彌陀を信じる故是を告げる、長岡屋源兵衛の家の竈の下に我姿が埋れて居るから何うか是を掘出して世に出せよと云ふお告げの夢、加之も三度續けて見ました ○『へエーそれは不思議な夢ですな、それでは阿彌陀様が源兵衛の家の臺所の竈の下に埋れて居るから出してくれと云ふお告げなので 喜『左様でございます ○『それはお前さんが何事も正直になすつて佛喜兵衛と云はれる位のお方だから阿彌陀様がお前さんを見込んでお頼みなすつたのだ 喜『然うと見えます、處で貴下方御一統へお願ひと云ふのは、私が行つて話しをした處で源兵衛が取上げませんから、皆さんで一ツ長岡屋へお出なすつて竈の下を掘らせるやうに話しをして頂きたいものでございますが、如何でございませう

西洋料理、電氣すき焼　ハイカラ井　おいしい京城第一との高評を博し居り候　南大門通　電話二五七一番　カフエータイガー

十二月三日九星　舊十一月九日甲戌　二黒　坤　閉　先勝

▲二黒 決斷に至らぬ事有る日 新事見合す 東方は吉 ▲三碧 利を見ば事有る日 [illegible] ▲四緑 平穏の日なれど [illegible] 新事林業は妨なし ▲五黄 [illegible] 新事手控萬事は吉 ▲六白 [illegible] ▲七赤 [illegible] ▲八白 油斷大敵の日 新事手控の事は吉 貸借の口入等せぬがよし ▲九紫 [illegible] ▲一白 あやふやな噺多き日 新事手控 [illegible] 買物に用心せらるべし

演藝案内

浪花館　明治町　電話二六〇
新時代の浪花節吉川今勝一行來る
十二月二日より毎夜六時開演 ○讀物 △孝子五郎正宗（吉川部）△和歌浦譽の大刀風（浪花錦升）△征韓論梅南記（吉川鐵舟）△慶安太平記（吉川容堂）△南部坂雪の別れ、空前の大疑獄美人ころし（吉川今勝）

有樂館　本町一丁目　電話二六六
日本活動寫眞株式會社特約
十一月二十七日より三大寫眞提供特別興行 [illegible]

大正館　櫻井町　電話八七三
日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店
十一月廿九日より [illegible] ○武士道鑑曾我兄弟 [illegible]

黄金館　電話一八五二（階上）二六三七（階下）
[illegible]

大好評如沸　本月新撮影當館封切寫眞
武士道鑑　曾我兄弟
一萬箱王生立より富士の裾野五郎時致十郎祐成迄全八卷二萬呎
忠臣藏 以上斷言たる事を仕候
特別大興行　**大正館**

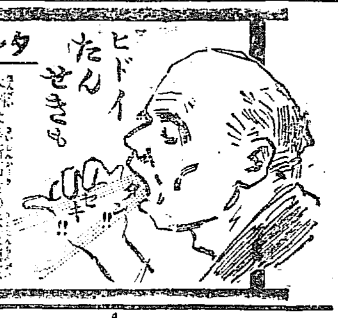
御成座　一町　電話一九一
第三十八回發賣 勇士の血涙「大和櫻」（全十一場）[illegible]

富の道しるべ　山縣五十雄　村上唯吉共著　價十五錢　郵税二錢　京城日報社代理部

月經　流經　新藥レスノリン
[illegible]
發行所 常盤藥院

サック
品　男　優良　秀川
特製十個四十錢　五十個一圓三十錢
[illegible]
丸尾商會（振替大阪一九〇六四番）

肺病豫防劑　タンセキ改良劑
呼吸器散　呼吸器丸



本劑は最新商會の祛痰鎮咳の特効劑を配伍せるを以て如何に重き呼吸器病にても一週間程試みよ!!
タンを祛りセキを鎭め胸苦しきを和らげ安眠の効を奏する事確實なり

かゝる時に効あり
息苦しく胸痛む時。
咳出て夜眠られぬ時。
たんに血の交る時。
聲潰れ出でざる時。
のんど腫れ痛む時。
たんせき切れ難き時。

本舗　大阪心斎橋 東京 丹平商會藥房
全國到る處の各藥店にあり
價 十錢 十五錢 三十錢

液

えき

●冬の最新美容術……

とは ホーカー液の御使用で肌に柔かい循環を起し色白くキメを細かにする隱化粧の事です

「と云ふ字の附られる家庭御化粧料は

冬の家庭の化粧料

（宮内省御買上を賜ふ）

→只一つ…

ホーカー液

冬の肌アレを防ぎ人好のする美人となる!

これからホーカー液の季節です
紳士、淑女、令嬢、學生、お子供衆に至るまで―冬分の肌をスベ〳〵と美しくする家庭化粧料

朝 お顔をお洗ひになつた後
夕 お湯にお召になたつ後

ホーカー液の効果
●色を白くし
●きめを細かにし
●肌のアレを防ぎ
●色つやを艶紅とさせ
●白粉下トキ水によく
●男子のヒゲソリ後
●お子供衆の肌を丈夫する

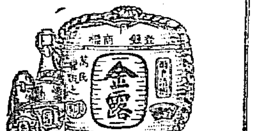
定價　小瓶二十錢　中瓶四十錢　大瓶八十錢
送料　内地無料　滿朝付錢

三越始め……全國到る處に販賣す。
最寄の店に品切の節は振替又は三錢切手代用にて直接本舗宛御註文下さい。

ホーカー液　ホーカー白粉　ホーカー美髮液　ホーカースネート

本舗　東京和泉橋　堀越嘉太郎商店　振替東京一五一六番　電話神田一四三・一四四・一四五番

ストーブ各種
輸入金物商　京城本町一丁目　佐野彦商店
電話一六三番・振替口座京城一二〇番
地方よりの御注文の節は迅速に御送付申上候



攝津灘　大塚釀造所吟製
發賣元　京城本町二丁目　前田酒店
電話一三七番　振替口座四二五番

貯蓄預金
元金百圓ニ付日歩壹錢三厘
金壹錢以上何程ニテモ御預申候
株式會社長崎貯蓄銀行代理店
株式會社十八銀行京城支店
京城黄金町　電話四二〇番　五八〇番　振替貯金口座京城八一四番
同　龍山出張所
龍山元町二丁目　電話一八番
諸預金貸付爲替銀行一般ノ業務ハ精々御便利ニ取扱可申候

最上醤油
京城本町三丁目
田中支店釀造
電話七六四番

父 土井米吉儀豫而病氣加養中の處去る三十日藥石効なく死去致候間此段生前辱知諸君に謹告仕候
追而葬儀は明二日午後三時大和町開教院に於て相營可申候
大正五年十二月三十日
男 土井軍治
親族 望月光詩
總代 樽見米藏
友人 松本又三
總代 飯田類次郎

父 茂吉儀別府に於て病氣療養中の處藥石効無く十一月廿五日逝去仕候に付此段生前辱知諸彦に謹告仕候也
追而葬儀は郷里廣島縣三原町に於て執行致候
群山港
男 眞田尚治
男 眞田詩助
親族 一同
友人 一同

栗羊羹　秋の夜長や　お茶の友（新菓）　千利堂（電話一一七〇番）

京城日報
第二版
二日朝刊 (夕刊と合せて八頁)

大阪三日特電

[illegible]六十圓高[illegible]

大阪期米 (一日)

▲[illegible]六圓八十一錢 △中限寄付十七圓五十二錢 [illegible]十七圓六十三錢東京十八圓[illegible] ▲一日後[illegible]

▲更に動かず [illegible] 大阪の下落[illegible]を受けて十二圓八十錢と[illegible]たる位七十九錢と云りて動かず㊀其他[illegible]㊀共他の[illegible]にて八十錢[illegible]と[illegible]を告げたり市況は大阪の[illegible]報じたるも地場正米の不勢を傳へて存外動かず焦げ付きたるが目先輕に斯る

▲今能く賣る [illegible]わつた是兵衞は新[illegible]米建なるに依る東京も新米建にして大阪のみ[illegible]古米建である 今後場同店より賣りたる玉數五千餘石に上りたりとの事にて大に市場の注目を惹い[illegible]

▲㊀の稻內[illegible] 後場同店より賣りたる玉數三千餘石に上りたりとの事

▲現物界 [illegible]地拂玄米十一圓七十五錢より十二圓十錢迄平壤玄米十[illegible]州小麥八圓三十錢迄延安小麥八圓五十錢等に[illegible]て出來たり ▲折黃海道五圓三十錢より八十錢迄忠淸道五圓三十錢より六十錢迄碑力[illegible]六圓六十錢より八十五錢迄等にて正米の軟弱に反し强人氣を以つて商談行はれ居れり

仁川期米

十一月限	七百五十石
十二月限	[illegible]萬[illegible]百五十石
一月限	一萬三千九百五[illegible]

平均値段 出來高

一節	十二圓八十[illegible]錢
二節	十二圓八十錢
三節	十二圓八十錢
四節	十二圓八十錢

一萬六千三百五十石

本紙定價 一部金三錢五厘 一ヶ月金六拾錢郵稅共一ヶ月金[illegible]拾五錢(前金に限り)郵稅共三ヶ月一圓九拾錢 六ヶ月三圓七拾錢 ▲郵券代用二割増
廣告料 ▲五號活字一行金[illegible]拾錢 ▲所謂內一行金[illegible]拾錢 ▲三號活字の一行は二號活字同樣 ▲一號活字の一行は五號活字[illegible]同樣
發行兼編輯人 奥田直毅
印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社
電話 [illegible]

東京より

○徐世昌の上京は、豫期の如く、紛糾せる北京の政局に、一轉換を與へんとしつゝあり。即ち彼は極めて公平なる態度を持し、兩成敗の形式の下に段總理と孫內務總長との衝突問題を解決せんとし。黎總統の同意を得て、先ず孫と段の秘書長として辣腕を振ひつゝある徐樹錚とを免職し、更らに段に向つて辭職を勸告するに至れり。是れ實に重大なる處分にして。普通ならば大動搖を來すべき筈なるも、北京の形勢は意外に平靜を示せり。即ち孫及び其後援者たる南方派は、孫を犧牲として、北方派の頭領たる段排斥の機運を促進せしめ得るに滿足し。且つ黎總統よりは、處分前に充分彼等に打合はす所ありしを以て、孫の如きは、免官當夜盛宴を張り祝杯を擧げし程なり。

○而して一方段も、既に北方派中にも勢威を失墜し居りて、敢てクーデターを行ふの實力なく。且つ孫の免官に依りて、一先づ自己の面目も立ちたるを以て、最早內閣を固執せざるべき態度を示し、徐樹錚の免官をも承認せり。此の如くして、段內閣の更迭は、今や時日の問題となれり。然らば何人が後繼內閣を引受くべきか。目下の所にては形勢全く

○徐世昌にして起たば、北方各派は勿論、南方派も亦た之を歡迎すべきも、徐は老齡の事とて、政爭の渦中に投ずるを欲せず、頻に辭退しつゝあり。南方派の一部にては、北洋軍閥中、段の安徽閥に對抗する直隸武人の頭領王士珍(現參謀總長)を擧げて、北方派の勢力を二分せんと企て居るものあるも。王の威望は未だ此難局に當るに足らず。結局各方面を持廻りたる末徐の引受を煩すに至るべきか、と觀測する者多し

○而して茲に注目すべきは孫、洪、伊、張、繼等進步國民兩黨の多數に、馮國璋及び北洋派中の直隸閥を加へたる一大政黨の組織計畫、目下進行中なる事にして。愈々成立せば、支那國會に於て絕對多數を占め、最も有力なるべきが、南方派中梁啓超湯化龍の一派は段等と結び、之れに對抗せんとし。目下兩派にて、岑春煊、陸榮廷の兩人を引入れんと、運動中也

○此の支那南北を縱貫二分する政黨成立の時期は未だ豫測すべからざるも、此の運動[illegible]、孫洪伊一派の方、確に[illegible]べき模樣にして段派は今や少からざる苦心中なるが如し(十一月二十八日)

□大正の青年と帝國の前途
『蘇峯先生の近著を讀む』(七)

中島生

蘇峰先生の近著を紹介する機會に於て、僭越一言を附加せしめよ。予は最初にも云へる如く、本書は特に朝鮮及び滿洲に於ける、帝國の親愛なる大正青年諸君に向つて、切に推薦し、其の精讀を乞はむと欲して已まざる也。其れと同時に予は本書が、大正の青年間に於てのみならず、大正の壯年者間にも、大正の老年者間にも、汎く讀まれんことを希望し、且つ其然るべきを確信する者也。蓋し本書が、青年の前途に理想的光明を與へたる所より言へば、本書固より大正青年論と做して可也。然れども、政事家の爲めに、爲政の大道を說明し、國民の爲めに、發展の進路を指示し日本帝國の爲めに百年の大計を論斷したる點より稱すれば、寔に堂々たる國家經綸策なりと做す可きが故也。

蘇峰先生が今を距る三十年前に、青年論を做したる時の國家と、今日の國家とは、同じく皇室中心の帝國にはあれど、然かも帝國の規模は擴大せられ、帝國の四圍の狀況は著しく變化せり。往時の日本は、日本の爲めに汲々乎として、先づ國家を守り立つるに多忙なりき。而して今日の日本は單に已れの爲めのみに非ず或は變ては已れの爲めたるに到るべきも、他を顧みる事なくして一日も安んじ能はざるの境遇に立てり。少くとも、亞細亞の爲めには、大なる覺悟と準備とを必要とするの時機に際會せり。所謂亞細亞モンロー主義は、大正日本の具眼者間には、最も熱心に唱道せられ居るに非ずや。茲に於てか、或は朝鮮に、或は滿洲に山水明媚なる母國を離れて、政治的に、經濟的に、社會的に、活動の生活を送り、又は送らんとする、大正新時代の國民が、國家の立場を知り、國家に對する國民の責務を知る事は、各自の依て立つ生計の手段方法を知らざる可らざるが如くに、須要なりと謂はざる可らず。吾人は母國の同胞に―朝鮮にありて母國の文字は或は瞎解あらんも―期待する事大なるものありと雖も、更に大陸に活動せる同胞に對しては、切實に其の典型的國民、大國民たるの自覺を以て、日新の努力を須さむ事を希望せざるを得ず。吾人は日本國民に總て政論家たれと希望する者に非ず。但だ希望して已まざるは、確乎たる興國の精神が全國民の生活を司配せむ事なり。安逸と享樂とは國民の賊也。國民的生活をして健全ならしむるものは、國民の深奥なる向上的精神と、國際問題に對する國民的理想なり。吾人は日本國民が自己を劣者と見て向上發展に努むることを排し、自己を優位に在りと信じ、而して更に向上努力するあらむことを希望す。蘇峰先生の言を借りて云へば、苟も實力あらば、無理さへも押し通さる、況んや道理をや。苟も實力なければ、十分の道理さへ、押し潰さる、況や五分五分の道理に於てをや。他を怨むは愚、他に賴むは怯、只だ自から力を養ふ以外に、何物をも恃む所なし。要するに力は道理を制する也。而して自から力を養ふの途は奈何。『大正の青年と帝國の前途』は之に向つて充分の解釋を與ふべき也。今日は、我帝國臣民たる者、其舊と新とを問はず、市民も村民も、職工も、總て同一愛國心の下に一致團結を要するの時也。而して國家の强盛は國民教育の力に俟たざる可らず。教育の目的は次代の國民を養成するに在り。而して教育は、學制や、教授法の適否によつてのみ、其の効果を論ず可らず。我帝國の歷史、我帝國の精神、我帝國の文化學藝、我帝國の產業經濟、約そ有らゆる社會全般に於て常時不斷に國民を訓育する所に於て、即ち國家の進化的精神は日本の教育に充滿するを得む。要するに國家の精神生活及び活動を以て教育の生命となし具體となし、之に基きて國民の氣魄を養成し、薰陶し、訓練する事は、今日我國に於ける喫緊の時務たらずんばあらず。蘇峰先生が『大正の青年と帝國の前途』は此の意味に於て、最も權威ある國民讀本なりと謂ふも可也。予は蘇峰先生と予との關係を離れて、本書を敢て一般江湖同好の士に推薦して已まず。而して予が此の紹介文の如きは、殆ど一顧の價値なし。乞ふ、讀者直ちに現書に就いて其大文章に觸れよ。最後に、予の知る處に於ては、蘇峰先生は日本の近代歷史を大成せしめんと志し居らると云ふ。蓋し徳富筆に依て、近世の日本が歷史的に描出さるゝに於ては、吾人は彼のマコーレーの英國史、ツライチユケの獨逸近代史の如き、代表的史論の、最も有力なるものを、我日本に於て之を得べきを信ず。而して世界の大勢は今後如何によるべきや。帝國の前途は愈々多忙なるべく、吾人の先生の思想文章に期待する所は今後益々多きを加へずんばあらず。(完)

羅南一瞥(四)

西海生

△空望の府制

▲羅南が近き將來京城釜山に亞ぐ大市街とならぬまでも、少なくも內地人集團の都會として朝鮮屈指の位置に進む事は些の疑ひを容るゝの餘地がない茲に於て羅南の自治を如何にするかと云ふ事が問題になつて來る▲今日の羅南は鏡城郡何々面何々洞と云ふ片田舍に過ぎない、名前などは怎うでもよいとして、兩三年後可なりな內地人市街を作り、殊に軍人の家庭が幾百と云ふ數に上れば、差し向き中學が必要だ、それより先づ女學校を建てねばならぬ、斯うした教育機關は學校組合で經營するとしても、衞生施設、土地としての對外交涉、市街經營などを怎うするか何によりて處理をして行くか▲羅南の府制施行を總督府に要望すると云ふ意見はそこに生れて來たものだが又羅南有志の數名は密に鎭南浦、淸津、木浦等小府の府稅額を調査して不可能でない、羅南とても相當の負擔をするのは決して不可能でない、羅南は兩三年後大羅南に進展するのだから、今日より府制實施の事を運動するのは早くない……等の議論がポツ〳〵今春より頭を擡げ出してゐる▲唯、府制は民團制施行地に限つてこれを布いたので、新に官制を更へ府を置く事は總督府で容易に認めぬらしいのと、道の當局が將來の羅南は知らず、今日の羅南が府制などと騷ぐのは以ての外だ――と存外問題にしてないから、未だ羅南より請願とか運動とか云ふやうな事は事實に現はれぬが、羅南有志の意氣込みは何れ早晚何とか物にしやうと云ふにあるやうだ▲記者などの觀る所では、目下の羅南が府制を要望するなどは早過ぎる。羅南の現狀府としては內容外觀共に貧弱である、大田や全州光州淸州等の各地は人口に於ても資力に於ても羅南の兄分である。將來羅南として發展すべき材料があるとしても、今日各都市を差し措いて府制の施行を得んとする如きは先づ困難と見るの外はない▲併し、內地人一千以上を包容せる各地に於て、[illegible]學校組合のみでは諸般の施設に不便少なからずと云ふ事は一致し、當局又茲に思ひを致し府制に準じた一の地方行政制度を創始すべく、審議中なりと、仄かに聞くから、羅南も其の實現の時を待つの外はあるまい

▲羅南より鏡城までは約一里、一の小山を越ゆればよい、世間の輕鐵は道廳で地方費を支出して敷設し其の保線及び經營を松本組に委託してゐる、何でも道では其の貸附料として松本組から年額二千四百圓乃ち一月當り二百圓宛を地方費收入として繰込むと云ふ事を聞いた▲其輕鐵に乘つて、羅鏡間を分つ小山の上に登る、羅南を見下すと兵營も市街も陸軍の官舍も一眸の裡に收まる、三四年後此所に立つたら其の發展ぶりは[illegible]可なり酷からうなどと思ひつゝ下ると直にトロを急がして、すぐ麓に續く鏡城の町に入つた

寒

(五の日十の日每吟) 浮碧樓

○寒き新道出づ家散らばり
○大道寒うヒタと砂篩立つ
鳥堂

日報詩壇

一番瀨華山

○歸鄉雜詠
臨發書感
滯留關北七經年。宿志蹉跎事似煙。奈惹萱闈衰疾。强顏歸向故鄉天。
評曰 多少感慨

將搭安平丸餞諸友
藹然欲盡故人情。握手埠頭肝膽傾。今日莫憂行路遠。此船恰好是安平。
評曰 船名用得太妙

船中偶成
輪船蹴浪逐鯨魚。日落煙雲忽又舒。喜此中無俗累。艙間閒臥讀詩書。
評曰 實況

○老少年 笹島紫峰
颯颯金風搖庭樹。欲遣閒愁扶杖步。天邊忽聽過雁聲。滿園草花帶玉露。就中最艷老少年。姿態何讓花鮮妍。不妨新霜染其色。更待雁來紅欲然。天地之間一微物。雨夕風晨纖華蕊。憶起千里客遊。自省吾身太愧怍。嗚呼五十餘年非。絕無尺寸恩惠人。生還勿說壽長。小草猶著錦衣。
評曰 通體享鍊寓託殊覺深遠

蘇峰 德富猪一郎新著
大正の青年と帝國の前途
第十六、七、八、九版又賣切
▼第二十版以後引續き製本中▲

上製 總クロース上製天金 函入菊判七百五十頁 定價金二圓八十錢 郵稅十二錢
並製 四六判七百三十頁 定價金八十錢 郵稅八錢
特製 三百部限 發賣 最上洋紙總革製天金 函入菊判七百五十頁 定價金四圓五十錢 郵稅[illegible]

▲本書は、著者が大正二年以來刊行したる『時務一家言』『世界の變局』『大正政局史論』と趣旨一貫、脈絡緊密、更に一段の努力と精采とを擢揮し、▲其の懷抱せる思想抱負を、歷史的、政治的、社會的、教育的に觀察し、叙述し、論評したる空前の大作にして、帝國の相續者たる大正の青年の爲めに、其の眷々の誠を致すに於て、實に至れり盡せる者也。
▲著者は國家の大黑柱、未來の相續者を陶冶し、匡正し、勸獎し、切磋琢磨の功を擧ぐるを第一とし、將來に對する我が國民の大理想、大抱負、大努力を說示し、我が大正青年の責任を論明し、其の自覺奮起を激勵せり。
▲著者が慨時濟世の精神は、卷中に橫溢し、愛國殉公の元氣は、行文の間に磅礴たり。嗚呼本書の一たび世に出づるや、滿天下の青年は、恰も暗夜に燈光を發見し、空谷に跫音を聞出したるが如く、驚喜して之を迎へ、旬日にして第十五版二萬部を刊行して、當代出版界未曾有の新記錄を作り、今や第十六、七、八、九版又賣切となる。是れ著者の主義主張が、弘く天下に容認せられ、宣傳せらるゝを立證するものにして、本書刊行の趣意、聊か亦酬ゐられたりと謂ふ可き乎。然も著者衷心の希望と期待とは、我が大和民族總體の國民讀本たるに在り。本社は江湖未讀の青年諸君が、此際速に本書を購讀して、著者立言の眞意を諒會せられんことを要望して止まざる也。

賣捌所 京城日報代理部 京城太平町一丁目 振替京城三〇〇番

◇お待兼の十二月號が出ました◇

大陸婦人界

歲末を飾る美しき女王の裝ひを見て下さい◇

口繪 ―[illegible]
◆現代婦人思潮の二大傾向……
結婚……女子大學 高島平三郎
◆歲暮贈答品の直段調べ
自害の方法を心得てた會津藩の婦人……醫學博士 芳賀榮次郎
婚約の肉體的注意……ドクトル 工藤武城
■彰義門の秋 ■京城見物 板橋生
[illegible]……文學博士 佐々醒雪 ■[illegible] 大西我羊
教育上から見た婦人と精力……青山學院 塚本濱子
◇水府烈公の農人形……文學士 太田秀穗
男子唯一の味方……鳩山春子
家庭生活の改善……女子大學校長 成瀨仁藏
■人妻となれる妹に送る……石林胡蝶
◇夫の不品行を歎く妻に與ふ……[illegible]野鳥
貞操問題は性慾問題である……早大教授 內ケ崎作三郎
赤い鳥 ■夢……久保田富江
■子福者家庭(水越理庸氏、石塚英藏氏の家庭)
■家庭訪問記(氏の家庭)
令孃通信……(遠藤光子 水野河鮮子)
記念……伯爵夫人 兒玉澤子
◇心……文學博士 前田慧雲
■經濟な裁方二つ……京城高等女學校長 明石梅子
■ポスト ■大正五年を送る皆さんへ ■兒玉夫人送別會
■十二月中家庭料理 ■編輯局から
◆金剛山登山記 三島靜子 國分峰子 渡邊たつ子
■彼の女の悲哀……勁 ■我が夫に望む六ケ條
■短歌……廣選 ■俳句……靜軒選 ■教會巡り記……聖パウロ教會

購讀申込所 京城太平通二丁目 大陸婦人社 (電話長二四〇〇番、一〇七〇番 振替京城二一〇二〇番) 內地臺灣滿洲支那各地書店に在り

一刻も早く御覽あれ此の麗はしき姿を◇◇

每月一回一日發行 一冊廿錢 半年分郵稅共一圓廿四錢 一年分同二圓四十五錢

購買入札
一夏服外二點
右購買ス入札希望ノ者ハ本日以降ノ朝鮮總督府官報ヲ見ルヘシ
大正五年十二月二日
警務總監部

京日案內

普通

店員入用 年齡十五歲以上二十歲迄の者至急入用希望者は來談あれ 龍山三角地前 山崎雜貨店 826

◎手代入用 四十歲以上並に店員數名入用 京城青葉町百二十番地 大橋大三郎 831

經驗ある看護婦一名至急募集す(新履歷書携帶のこと) 京城黃金町二丁目八五 朝鮮實費診療病院 832

古本なら野村 買入誠實 御報參上 明治町筋 電二六三六 野村書店 827

◎古本熱心高價買入 ◎是非御試賣を乞ふ 電話二七八一番 ▲御報參上 ▲本町四 ▲書肆 群書堂 828

◎團員募集 ○月收三十圓以上希望者本人來談あれ 新龍山鐵道構內三十四號官舍前(三階建) 帝國博愛團 821

番外

恩給 年金 低利 短期 無保險並に勸業貯蓄債券買入 替立 京城永樂町二丁目(金光教北手) 國江商會 830

◎はねつき うちみ くじき等 一切の治療御依賴に應ず 明治町 柔術道場 829

讓店 賣藥、化粧品、小間物其他 日用雜貨業 最有利多望の老舖也 (姓名在社) 492

鑛物定量分析 京城府太平通(朝鮮公論社左小路) 電話一三四四番 坂元分析所 767

看護婦見習生二名入用希望者は履歷書携帶本人來談ありたし 京城本町一丁目 電話一三九〇番 石川醫院 824

朝鮮語科 英語科 新學期 三ケ月修業 各級補缺募集 南大門通(漢城銀行向ひ) 京城青年會 795

原料騰貴の爲め十二月一日より食パン左の通り値上致候 ●小賣一斤十錢 御賣一斤九錢 パン製造麥粉販賣 (電話一八四三) 太平通二丁目 公安號 817

京城春川間自動車賃金片道四圓 京城春川間每日午前八時卅分出發 南大門通一丁目 電話二一二九番 廣橋自動車 主務 金正溯 630組

新刊書御案內

書名	著者	定價
徹底禪	秋野孝道	九〇
最新物理學精義	森總之助	二、七〇
日本民權發達史	植原悅二郎	二、二〇
法華經講義上	本多日生	一、八〇
商業實買上	小林行昌	一、五〇
ヘンリーアール・シーアー博士 經濟原論	堀川美哉譯	一、一〇
神道哲學	小野清秀	一、三〇
禪窓閑話	菅原時保	九〇
豪傑快傑	田中貢太郎	一、二〇
珍らしき科學の話	釋山增人	八五
小說 夏木立	正宗白鳥	九五
檜扇	間島琴山	一、〇〇
糸竹大全	佐々醒雪	八〇
俗曲文庫 義太夫集上	海賀變哲	五五
なすな戀	坪內士行	[illegible]
物見遊山 漫畫と文	岡本一平	[illegible]
日記のつけ方	水野葉舟	六五

大阪屋號書店 京城本町二丁目 電話二〇八六番 振京城一一三七三

◎米人講和運動と英人

米國に於ける講和斡旋運動益々熾烈となりつゝあり英人は該運動を目して獨逸系米人の陰謀に出づるものとなせり（紐育電報）

◎羅馬尼首府遷移

羅馬尼政府は獨墺軍の殺到によりブカレスト危急に瀕せる爲め首府を國境ヤッシーに移せり（紐育電報）

◎獨軍羅國要地占領

獨逸公報に依れば獨軍は羅馬尼の重要なる鐵道交叉點ピテシュチを占領せりと（倫敦電報）

◎聯軍公報

巴里來電＝二十八日午後發表の公報に曰く「ソンム方及びピアシエブレ方面の諸地點に於ける戰鬪あり我軍は美事にグーニア、ツ西北及びチェルナ東方の諸高地を奪取し獨勃軍の猛烈なる攻擊を受くるに拘らず悉く其等の高地を保持せり敵は雖無益の損害を被るのみならず又我ヅーブ兵はモナスチール北方なる一〇五〇高地東方の一高地を占領せるが其の西北に於ても目下激戰進行中なり我軍は一二四八高地に向て追擊中なるが敵は必死となりて防戰に努めつゝあり伊軍も亦クレッステナ方面の一地に前進中なり（倫敦電報）

◎英聯合艦隊司令官更迭

英國海相バルフォア氏は下院に於て發表して曰く英國聯合艦隊司令官ジェリコー提督は軍令部長に任ぜられビー提督其の後任となれりと（倫敦電報）

◎日本の要求に反對

奉天公民會第三次大會開催

奉天公民會代表者七名は十一月三十日夜北京に赴きたり同會は近日第三次大會を開催奉天省五十六縣の代表者三百餘名來會すべく而して全國の贊成を得て之を全國公民大會とし極力日本の要求に反對する意氣込なり（奉天特電）

◎葉錢兌換取締嚴重

張督軍の葉錢兌換取締は極めて嚴重にして檢擧せらるゝ者續々として出づるより關係支那人は嫌疑を受けん事を恐れて日本人の商店に來らず商賣は殆んど停止されたるの觀あり（奉天特電）

◎英國債券引受條件

既報の如く英國政府發行の債券一億圓は左の條件にて日本銀行團に於て引受くる事に決せる旨一日大藏省より發表されたり（東京特電）

（一）名稱　千九百十六年英國政府發行國庫債券
（二）金額　一億圓
（三）期限　三箇年
（四）利率　六分
（五）拂込　大正六年一月五日迄に全部拂込
（六）銀行團　第百、第一、第二、安田、三井、第十五、興銀、正金、鴻池、浪速、近江、住友、山口、三菱

◎海軍異動

一日海軍進級大異動行はれたり內重なる者左の如し（東京特電）

海軍中將　吉松茂太郎
同　藤井較一
任海軍大將（各通）
海軍少將　關野謙吉
同　東郷吉太郎
同　松村龍雄
同　佐藤鐵太郎
同　博恭王
同　上村翁輔
任海軍中將（各通）
海軍機關少將　中島與曾八
同　入澤敏雄
任海軍機關中將（各通）
海軍大佐　廣瀨弘毅
任海軍少將
海軍機關大佐　平塚保
任海軍機關少將
海軍主計大監　佐野雄治
任海軍主計總監
海軍造船大監　山本開藏
任海軍造船總監
海軍造兵大監　楠瀨熊治
任海軍造兵總監
海軍大將　藤井較一
任海軍々事參議官
海軍中將　加藤定吉
任吳鎭守府司令長官
海軍中將　依仁王
任横須賀鎭守府司令長官兼任海軍將官會議員
海軍中將　伊知地季珍
任海軍將官會議員
海軍中將　有馬良橘
任海軍教育本部長兼海軍將官會議員
海軍中將　財部彪
任海軍將官會議員
海軍中將　黒井悌次郎
任旅順要港部司令官
海軍中將　野間口兼雄
任海軍兵學校長
海軍中將　田中盛秀
任横須賀海軍工廠長
海軍中將　東郷吉太郎
任鎭海要港部司令官兼臨時海軍建築支部長
海軍中將　松村龍雄
任馬公要港部司令官
海軍中將　博恭王
任海軍將官會議員兼軍令部出仕
海軍少將　山口九十郎
任佐世保海軍工廠長
海軍少將　竹下勇
任第二戰隊司令官
海軍少將　小栗孝三郎
任第六戰隊司令官
海軍少將　秋山眞之
任第二水雷戰隊司令官
海軍少將　井出謙治
任海軍省軍務局長兼海軍將官會議員
海軍少將　森義臣
任海軍將官會議員
海軍少將　木村剛
任舞鶴海軍工廠長
海軍少將　田所廣海
任第一水雷戰隊司令官
海軍少將　釜屋六郎
任朝鮮總督附武官
海軍少將　永田泰次郎
任横須賀鎭守府參謀長
海軍少將　向彌一
任侍從武官
海軍少將　荒川仲吾
任第三水雷戰隊司令官
海軍少將　布目滿造
任水路部長
海軍少將　加藤寛治
任砲術學校長
海軍少將　吉田增次郎
任臨時南洋群島防備隊司令官
海軍少將　川原袈裟太郎
任海軍水雷學校長
海軍少將　齋藤半六
任佐世保鎭守府參謀長
海軍少將　安保清種
任軍令部參謀兼海軍大學校教官
海軍少將　吉田清風
任海軍々令部參謀兼臨時建築部々員
海軍主計總監　清水宇助
任吳海軍經理部長兼同鎭守府主計長
海軍主計總監　相良澄
任横須賀海軍經理部長兼同鎭守府主計長
海軍主計總監　佐野雄治
任海軍經理學校長
海軍造船總監　山本開藏
任海軍技術本部出仕兼技術會議員
海軍造兵總監　楠瀨熊治
任海軍技術本部出仕兼海軍大學校教官兼海軍技術會議員

◎文武官陞叙

一日宮中に於て大谷陸軍大將以下文武官三百名に對し位階陞敍の御沙汰ありたり內朝鮮關係者如左（東京特電）

前朝鮮總督府中樞院書記官長從四位勳二等　小松緑
叙正四位
正五位　鄭寅興
同　洪鍾檍
敍從四位（各通）

◎五圓紙幣改造

一日大藏省令を以て五圓紙幣を改造し十五日より發行する旨公示せられたり（東京特電）

◎軍艦註文來る

某國政府より軍艦製造の註文ありたる爲代金其他に就ては目下交涉中なり（東京電報）

▲某國より驅逐艇其他を合し十數隻の建造註文來れり（東京電報）

◎中橋氏獨舞臺

石川縣衆議院議員選舉期日は十八日と決定し金澤市は横山章氏立候補を辭し中橋德五郎氏の獨舞臺となれり郡部に於て憲政會の形勢不振なり（東京電報）

◎長谷川總督赴任

長谷川朝鮮總督は副官、秘書官を隨へ二日午前八時三十分東京驛發途中伊勢神宮、桃山御陵に參拜し京城に赴任すべし（東京特電）

◎面制度の釐革

改正の目的と制令發布期

朝鮮總督府面制案は既に法制局に附され澤田事務部第一課長之が打合せの爲現に東上中なれば多分本年內に於て御裁可を仰ぎ制令として發布さる可く、明年度より實施の運びを見る可し、同案の內容は素より明言の限りにあらざるも從來面制に就きては地方官々制第二十五條に各郡島に面を置くとあるのみ、單に一の行政區畫に過ぎずして何等の事業能力を認めらるゝことなし、然れども實際の必要に迫りて或は市場を經營し或は墓地を處理し又た從來財産を有し來れるを以て證明令等に於て其面を以て財產權の主體として取扱ひ來れり、されど斯の如きは畢竟權宜の措置に出たるものにして面制の確立せざる時に在りては之れを法理上より論せば多少論議の餘地なきにあらず、玆に於て同案は朝鮮現下の情勢に適合し面に人格を附與して以て或る種の事業能力を認めむとするにあるものにして其の內容は內地の町村制と同樣ならざることは無論なる可きも又た面制の一大釐革といふ可く愈々實施の運びを得ば地方の進展を助長するの効果決して鮮少ならざる可し

◎朝鮮にセメント工場計畫

小野田セメント會社にては朝鮮に分工場設置の計畫を立て內々其調査を行ふ所ありたるが愈今回大同江畔なる平安南道大同郡寺洞の地をトし小野田セメント朝鮮工場を設置することゝなり其筋へ工場設置認可の申請を爲したり其計畫によれば最初設備費として約百三十萬圓を投じ大正六年の解氷期より工事に着手し大正七年の夏頃より製造に着手せんとするものなり之に要する機械は目下外國品の輸入不可能なるため全部日本製のものを使用する筈なり朝鮮に於けるセメントの消費量は年額約二十五萬樽と稱せられ居れるが同社分工場竣工の上は初年度より少なくも朝鮮の全需要額を一手に供給し進んでは約三百萬圓位迄の製造費を投せんとするものなり、原料は前記の工場建設地たる寺洞の附近なる晩達山が全部石灰石なるを以て之より採取することゝなる可く一噸約三十錢の割合にて良好の原料を得べしと會社は尙製品搬出のため寺洞より平壤驛に至る約一里の間に鐵道の引込線を要求したるが此點に於て總督府と會社側との意見一致せず遂に今回同社の技師長なる笠井工學博士及び將來朝鮮分工場長たる可き朝枝工學士は渡鮮し總督府と打合す處ありたるが引込線問題は圓滿に進行したるものゝ如しと

◎總監茶菓饗應

山縣政務總監は一日午後三時より農業技術官會同出席者一同を總督官邸に招き茶菓の饗應あり、總督府よりは宇佐美、小原兩長官、中村技師、各課長、農商工部內高等官等列席したり

◎小原長官饗宴

小原農商工部長官は一日午後六時より入京中なる各道農業技術官、模範場同支場技師等を花月に招待し饗應あり、農商工部職員一同も列席す

◎佛商務官入京

佛國商務官ナイト氏は十一月三十日朝入京朝鮮ホテルに投宿、一日午前は栗田通譯官の案內にて京城工業專門學校、京畿道恩賜授產場等を觀察したり

◎決算期と鮮銀

朝鮮銀行にては大正五年度半期決算切迫し各支店及各店共多忙の模樣なるが各支店の預金勘定は其の締切りを十一月末に行ふ事となり居る爲め營業課及び各地支店は殊に多忙を極め居れり

◎櫻丸入渠修繕

鐵道局にては關釜聯絡船及び貨物船の船腹不足に付其の聯絡船の一隻たる櫻丸を臨時貨物船に運航せしむべく既に鐵道院共打合はせを終りたるが最近同船はタービンを損じ入渠修理をなす事となりしに付貨物輸送上當局の著しく苦痛とする所の如き修繕終り次第臨時貨物船として關釜間を航行すべしと

◎石塚總裁等歸任期

東上中の石塚東拓總裁及び松平直平、高瀨梅吉兩東拓理事は一日より三日間各方面の有力者多數を招宴新任披露會を開き四日大阪に赴き同地に於ても披露宴を行ない六日同地發多分總裁一行八日歸任の事とならん

◎東拓理事と社宅

東拓理事川上常郎氏は此程西小門町前東拓理事跡へ又高瀨理事は旭町鮮銀社宅より村田前東拓理事跡へ何れも移轉を了したるが近く來鮮すべき理事松平直平は西小門町野田前副總裁跡に居をトすべしと

◎辭令

十一月三十日附を以て左の通り辭令ありたり

朝鮮總督府試補　倉橋
任朝鮮總督府事務官叙高等官七等
總督官房土木局在勤ヲ命ス
同　田中直通
任朝鮮總督府事務官叙高等官七等
內務部第二課勤務ヲ命ス
同　林繁藏
任朝鮮總督府道事務官叙高等官七等
慶尚北道在勤ヲ命ス
同　高橋權三郎
任朝鮮總督府道事務官叙高等官七等
平安北道在勤ヲ命ス
朝鮮總督府道事務官　山口政二
文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ス
朝鮮總督府臨時土地調査局監査官　宮本幾治
同　吉田金作
同　近藤正歷
依願免本官

◎郵便所の移轉

平北博川郡嘉山面東文洞所在の嘉山郵便局を十二月六日より同郡南面孟中洞に移し孟中里郵便所と改稱したり

人事消息

▲森總督附武官　一日午後九時南大門驛着
▲デアリング氏夫妻▲ダーフィー氏▲ベンキ氏夫妻▲レシナー氏夫妻（以上英人）▲フエアリー氏（英人）▲周啓鏞氏（支那人）　一日夜入京朝鮮ホテルへ

◎反張督軍氣勢

奉天省動搖の兆あり

張奉天督軍に對して或一部に近來反對氣勢高まりつゝある模樣あり其の近因は同將軍が曩に金融擾亂者を法廷の審問にも附せずして之を死刑に處したるが爲め銀行家、商議會、其他紳商の間に漸く反對の聲起れると共に從來張督軍と相良からざる馮師長一派の軍人之れに和して動き來れるが故なりと噂せらる

▲張督軍の態度　は其後益々變幻出沒の妙を極め、端倪し難き有樣なるが此程奉天省議會の發起にて故黃興、故蔡鍔の追悼會を營まんとしたるに張督軍は黃は前清朝を滅したる逆臣、蔡は袁政府を覆へしたる叛臣なれば其の死後を弔らふが如きは斷じて不可なりと唱へ進んで其の中止を迫りたる程にて之が爲め省議員の間にも張反對熱起り呉議員の如きは國民黨を後援として近く議會に張督軍彈劾案を提出せんと意氣込み居れる由なるが奉天方面に於ける張督軍の勢力は其後益々根深く容易に拔き離きものあるを以て省議會も果して強硬の態度に出づるや否やは今のところ不明なり

▲日支親善の夢　に對して張督軍は曩に宗社黨蒙古軍の蜂起せるに先きだち日本の或方面より或る交涉を受けたりとて其の當時の事を楯に取り一方日支親善の必要を鼓吹すると同時に他方北京政府に向け段瑞一派と相應じて何等か策略を廻らしつゝある形跡ありとの噂もあり尤も吉林を中心として動き出せる鄭家屯事件の日支交涉に對する反對運動に關しては張督軍の態度頗る巧妙を極め此程奉天省議會々場において公民大會を開催せる砌り各遊說員が熱心に國土主權の維持を叫出して反對的氣勢を高めたるにも拘らず軍界及び官界よりは一名の出席者も是なく當日の來會者は僅に省議員の一部と少數の有志に過ぎざりしと云へり奉天省に排日氣勢の高まらんことは張督軍の警戒し居る所に似たり

▲事の眞相如何　は猶ほ明かならざるも奉天省の紳商間、省議員の一部、軍界の一派に反張督軍熱の漸く起り來らんとしつゝあるは事實と認むるを得べく之れに對し張督軍は部下を利用して例の如く斷なく八方に戒飭を加へつゝあるが如し今後如何なる變態を生ずべきか此邊の事は今遽に斷言し難きも多少の風波は起る事なるべし（大連）

◎支那特使歡迎　回答

林駐支公使を經て支那政府より曹汝霖氏を特使として派遣の通告に接し折返し使節歡迎の旨を回答せり（東京電報）

◎定例閣議開會

定例閣議は一日午前十時より內閣に於て開會首相以下各大臣全部出席通政務に就き協議の上外務省人事一件及び前閣議に引續き巴里經濟會議事項實行の件を附議し之が實行に就き樞密院の御諮詢を奏請する事となせり（東京特電）

◎出超三億餘圓

大藏省の調査に係る十一月下旬の外國貿易は輸出に於て羽二重及び製茶の減少せしに拘らず生糸、屑糸、精糖等增加の爲め前旬に比し三割一分を增加して四千四百三十五萬二千圓を算し輸入は米の減退せるにも拘らず羊毛、棉花及び鐵銅等增加せる爲め前旬に比し四割一分を增加して二千二百五十八萬四千圓となり差引二千百七十六萬八千圓の輸入超過を示せるが一月以來の累計輸出超過三億一千四十九萬八千圓に達せり（東京特電）

土地賣却入札公告

第一號　全羅南道務安郡一老面耕地雜地合計約六十三町歩
第二號　同海南郡溪谷面耕地雜地合計約二百九十八町歩
第三號　同海南郡黃山面耕地雜地合計約五十町歩
右入札ニ附シ賣却ス買受希望ノ向ハ左記要項承知ノ上入札セラルヘシ
大正五年五月廿九日　元慶善宮遺產清算委員

一、入札場所　京城德壽宮事務所
二、入札日時　十二月十八日午前十一時締切後直ニ開札
三、入札心得　入札心得書ハ德壽宮事務所ニ備付アリ
四、實地檢分　實地檢分希望者ハ十二月八日マテニ木浦靈山町谷垣嘉市宛通知ノ上時日ヲ定メ案內ヲ受ケラルヽコト
五、入札保證金　入札保證金ハ見積額ノ千分ノ五十
六、契約擔任者　德壽宮事務長李王職事務官國分象太郎
七、雜件　入札ハ前記土地各號別トスルモ全部合併スルモ隨意トス又郵便ヲ以テ入札スルモ差支ナシ但シ此場合ハ入札定刻前豫メ保證金ノ納付ヲ要ス　以上

教員養成

小學本科正教員、准教員、尋常小學本科正教員檢定試驗受驗科各科　師範入學試驗受驗科新學期開始
講師　大部分男女兩高師教諭其他知名大家
此際入會者に限り大特典あり先つ會則を看よハカキにて申込次第進呈
會長澤柳博士　東京市牛込區津久戶町二四　日本師範學會

▲諸機關を鋭意刷新し取引正確と計算公明を誓ひ可申候
▲地方顧客の御注文は證據金電報爲替付願上度候
▲弊店營業案內は直ちに御送付可仕候
大阪株式取引所仲買（大阪市東區北濱二丁目）
奥田浅治郎
電話本局　長一九八番　長一九九番　四九七八番　三三四四番

文藝倶樂部

活躍せる辰年の最終號　定價二十八錢郵稅二錢半　前金稅共八冊二圓廿五錢

▲東京風俗歳の暮百景……吉丁字
▲土左衛門話……沙鷗閑史
▲水道ゴムの行商……淵川生
▲化け込患者と看護婦……高橋迎月
小說　木曾の紅蝶……泉鏡花
志賀山おせい……松居松葉
落葉の頭……岡田八千代
針供養……渡邊霞亭
▲誌上連鎖仁王長五郎……吉山旭光
▲大阪より中七候……岡太郎
▲伸わん〳〵新花柳氣分岡場所の冬……深海泡浪
大當かさね物語（芝居見たまゝ）……鬼太郎
▲演藝當座帳……劇通三氏
▲稻月芝居短評……黑頭子
▲雲右衛門が死んだ……姫亭生
▲呂昇問答
▲寫眞家渡米診談
小說　萬吉のこゝろ……足立朗月
短銃緣起……鹿島櫻巷
▲千代龍落籍……幽亭西客
▲義太夫生さぬなか……坪谷水哉
▲山形みやげ……巌谷小波
▲雲石伯京小記
講談　內藤新宿の猫……桃川如燕
東京本町　博文館

日韓書房

新版報告
新渡戶稻造著　自警　定價一圓廿錢　郵料十六錢
鶴崎鷲城著　現代の歷史を造る人々　定價九十錢　郵料十錢
奥田義人著　學生論　定價八十五錢　郵料十錢
仲小路廉著　強者の天地　定價一圓　郵料十錢
國民中學會編　祝祭慶弔式辭演說二千題　定價一圓　郵料十錢
京城本町二丁目

イゲダ小兒病內科醫院

池田季雄
京城三越吳服店前（入る旭町四丁目）
電話　醫院一三三四番　自宅八八〇番

◎吉長鐵道借款提出

◎第三黨の組織

●聯立内閣に倦む

英國民は一般にアスキス氏の聯立内閣に倦みロイド、ヂョージ氏の[illegible]たる事を歡迎しつゝあり(紐育電報)

●議員[illegible]

[illegible]議員にては去月二十九日[illegible]選出議員大久保辨太郎氏の辭職を[illegible]

[illegible]年は例年に比し漁獲開始期の早かり[illegible]時漁獲斷絶の姿となり漁業者は[illegible]

元山府に於ては造林[illegible]の爲め落葉松其の他種苗共同購入に就き斡旋中なりしが目下之れが[illegible]

[illegible]日午後一時より評議員會を催し大豆檢査實施延期に關し市内穀業者より[illegible]

[illegible]時より安寧兩地の重なる官民數十名を第二綠新館に招待し盛大なる披露[illegible]

お國訛りもなつかしく
新兵を迎へて
賑やかな混合列車　達者さうな顔計り

内地から新に龍山なる第十九師團步兵第七十七聯隊に入營すべく玄界灘を越ねて遙々渡つて來た所謂新兵達を一日の午後六時水原まで出迎へて同じ列車に乘込む、普通混合列車に九輛の三等車を増結してそれに一車約九十名宛七百九十三名の

▼新しい國家の干城

がギシ〳〵と詰め込まれ一車每に軍曹或は曹長が一人宛附いて何彼と世話を燒いてゐる九師の車を三四度往來して見ると新兵達の廣島訛山口訛四國訛が先づ耳につく中には同國人が寄添ふて睦しげに語り合てゐるのもあり變つたお國訛りが何んとなく懷かしい輸送指揮官の聯隊副官阿津川大尉が入營者の聯隊區は第五師團管下山口、松山、廣島、岩國の四箇所だとの說明が立派にそれを裏書する、胡座し、跌座し、投足し、肱を凭せかけた入營者の姿や雜然、混然最新流行のソフトを横ッ冠りしたのや

▼二重廻しに鳥打さ

碎けたの、紋付もあり、袴を穿いてるのもあり著物の衿に何れも中隊名を記した番號札縫ひつけて健胆の誇が輝やいてる顔には故郷を離れて幾日にもならぬ生々しい離愁のあと、さてまた曾て經驗した事の無い嚴格な規律生活に入るといふ不安がチラ〳〵と見ゐるがそれでも流石に朝鮮とはホンの一衣帶水の土地から來た者が多い丈に左程遠方に來たといふ感じも持たず、至極元氣で暢氣さうな顔をしてゐる、輸送係の下士は

▼列車の止まる度に

『君は何度も言つた通り姿勢を正しくしなければ可かん』、敬禮は必らず行へ、龍山に著いて隊へ行く道では煙草を喫つたり、小聲で囁き合つたりしてはならん』などと一々言つて聞かせる、一同は列車中では窓から首を出したり物を買つて喰べたりしては可けぬと固く言ひ渡されてゐるのでその多くは下の關出帆當時に渡された

▼水筒の口から水許

り飮んでゐるが、それでも窃そりと窓から物賣りを呼んで蜜柑や柿の高いのに眼を丸くしてゐる、中には浪花節を唸つたり小唄を唄つたり雜談に花を咲かせたり賑かな事だ、翌日からは全く自由を拘束されるのだと思ふ同情からか引率の下士連も聞かぬ振り見ぬ振りをしてゐる、途中の停車驛には同郷の知人などが來て『ヤア御珍らしう』『有難うムいます、△中隊ですからどうぞ宜しく』など

▼慌ただしく挨拶を

交してゐる、永登浦を出ると『最う直ぐに降りるのだから皆支度せい』と言はれてボツ〳〵小さな荷物を纏めて仕度にかゝつた

□新兵の龍山著　(七時三十分龍山驛にて)

▼著馴れた私服を冷い軍服に
寢臺に潜り込んで兵營第一夜の夢

列車が三十分程遲れて午後七時三十五分龍山驛に著くと池内聯隊長が子供達でも迎へるやうに聯隊長、將校一同と共に莞爾しながら出迎へてゐる入營者の知人の顔も大分見ねて八百人近い若者の中から孝りに物色してゐる指揮者の注意で步廊に降りると直ぐに整然と列を作つてゾロ〳〵と驛の前に出で其處で改めて整列、人員點呼に大きな聲で明瞭に答へて暗い龍山の街を兵營に向ふ、營庭には此の日特に點された孤燈が煌々と照つて、輸送係の手から各中隊に引渡されると今まで著馴れた私服を脫がされて軍服を與へられ、馴れない寢臺に潜り込む、之れが愈々軍隊生活の第一步、兵營第一夜の夢こそ彼等の永い生涯の内で忘れ難い記念となるであらう。

▼何より感じたのは寒い事
途中は無事=輸送指揮官阿津川大尉談

輸送指揮官の阿津川大尉は曰く今回の新入營壯丁を廿五日までに下の關に集め身體檢査を行つた結果、七百九十三名を採り五十五名は疾病その他で翌年廻し兵役免除等にした、入營者中十五六名の文字を解せぬ者がある外は全部相當教育を有し、殊に中等教育を受けた者が多いのは誇とするに足る、釜山に著いたのは三十日の拂曉、同地の在鄉軍人會や運輸支部の世話で寺を借りて其處に集合させて置き夜の十一時に釜山を出て大邱では八十聯隊の少佐の人と兵が十數名出て朝餐の世話を大田では七十九聯隊から同じく晝餐と夜食の用意をしてくれたので好都合だつた、下の關を出る時、所持の時計を見送人に返へさせると同時に金も一箇月の給與二圓十錢を除く外は返へさせたので途中の衞生狀態も良く無事釜山に著いた、彼等が何より感じたのは寒い事でしたが凡そ覺悟はしてゐたやうです

土壁から出た瓦の破片
土城附近の漢民族の遺物=關野博士談の一

今回調査したるは大同江流域なる大同郡大同江面土城及び龍江郡海雲面等に於ける樂浪時代の遺跡及び大同郡長水院附近に於ける

□高勾麗の遺址　等であるが茲には專ら大同江面土城附近に於ける樂浪郡治時代の遺跡に就て述べる事とする、樂浪時代は今から凡そ二千年前漢の武帝が朝鮮の北半を平定して樂浪外四郡を置いた時から始まり支那の後漢、三國、晉の時代を經て今から約千六百年前に武帝の置かれた四郡は北方の高麗南方の新羅の

□兩方から壓迫　されて遂に北部半島に於ける漢民族の政治は覆沒して終つた此の間は約四百年の間であつて其の間に盛衰は有つたが平安南北道黄海道京畿道江原道等に亙つて支那の勢力が根底深く扶植せられ又多數の漢民族の移住して遂に土著した事も事實である樂浪郡の

□遺跡の調査を　始めたのは明治四十二年自分等が舊韓國政府の囑託を受けて大同成川平原江東の各郡に亙りて調査を遂げ古墳二箇所を發掘し大體に於て昔時樂浪郡が此の附近に在つた事を確め得たのであるが併しながら此の時代には未だ樂浪郡の郡治の場所が判然として居らなかつた多くの人は何れも平壤が其の

□郡治の場所で　あると信じて居つた然るに今から四年前に自分は[illegible]約一里の地即ち大同郡大同江面土城に於て一つの土壁を發見して種々調査の結果土壁の内部に於て後漢時代の特色の模樣ある丸瓦及び平瓦の破片を發見した朝鮮にも極めて

□古くから瓦は　有つたが朝鮮の瓦には模樣が無いから此の發見せる瓦の破片は此の土城内に漢民族の建築物の曾て存在した事を證明して居る更に調査を進めると漢時代の銅印と共に多數の銅鏃又は銅製の鉾矛刀劍等を發見した銅製の武器を使用したのは專ら前漢の時代迄であつて

□後漢の時代に　なると多く武器は鐵で製作して居るから此の發掘物に由つて此の土城が前漢の時代に關係を有して居る事も明かに成つた此の外に猶通貨を鑄造する多數の錢盤又は銅器の鑄造器具、金銀の細工物金具類等を多く發掘したので大略樂浪時代の郡治の場所は土城なる事を知り得たのである

□猶此の考證を　強からしむべきは土城を中心として一千餘の古墳が散在して居る事である而も其の古墳は何れも朝鮮の古墳と其の趣を異にし支那各地に殘存する漢時代の古墳と其の式を同じくして其の形は臺方形を爲して居る且つ此等の古墳の内には漢民族の製作せる磚(煉瓦)を以て

□漢民族特有の　ある形式を以て築造されて居る之等を綜合して考ふれば土城は明かに樂浪郡治の跡であると云ふ事が確め得たのである

動物諸君　ライオン

ライオン君はさすがに百獸の王だけあつて其の步きぶりから坐り方まで堂々たるもの、時々クフン〳〵!!と鼻をならすかと思ふと急にグヮフン〳〵!!と動物園がはね飛ぶやうな猛叫を試みるこれが檻の裡に居るから未だしも假りに二十分でも鍾路の大通に追放したらと怖氣つきながら物騷なことを考へて居るとまたグヮフン〳〵!!前の岡田老先生がお自慢で育てた三匹の仔獅子はモウ大分大人になつた、折から丸髷の奧さんが可愛い〳〵海軍服の坊ちやんに敎へて被仰るには『ネ、アフリカのライオン!ライオンの赤ん坊は産れるとすぐお阿母さんが深い谷底へ蹴落します、そして匍ひ上つた赤ん坊ばかりにお乳をのませます』と頗る古い國語讀本のおはなしをする、坊ちやん曰く『こわあい――』

朝鮮最長の茂山隧道
一日貫通す

松本組の請負にて工事中なりし茂山隧道は一日貫通せるが同隧道は長さ四千三百四十二呎にして朝鮮に於ける最長の隧道なり(清津特電)

六甲山に潜める殺人狂
遂に捕縛さる　血染の手巾を持つ

阪神間を騷がせし殺人狂入江三郎は八尾署にて逮捕され大阪府刑事課に護送し更に神戸に護送せり同人は神戸を出で六甲山に潜伏後大阪に來り諸所を遁逃し八尾署部内に到りしものにて顔色憔悴し病人の如く元氣なく袂に血痕あるハンカチーフ及び出刃庖丁とを所持し居りたり(大阪特電)

嫉妬は燃る火

江原道鐵原郡葛末面芝浦里陳長汝の妻禹忠驪(三一)は性來愚鈍なるも十七年前同人に嫁したるが日常の用向きをも果たし兼ぬる有樣なるより姑朴姓女に嫌はれ居る内偶明治四十三年十月頃姑が忠驪を離別し隣家居住の亡金萬浩の寡婦金氏を後妻に娶らんとする模樣あるを探知し嫉妬の餘り金氏の居宅を燒却して同女を他に轉住せしめんと同月二十六日夜隣家軒下に堆積しある薬に放火して居宅一棟を燒失せしめ大正三年舊五月頃夫陳長汝が屢々同金の金德江方に出入するを見て同人の妻金氏と私通したるものと邪推して金氏と口論の末搭闘し金氏を泥まみれとなしたることあり引續き同月二十八日夜金氏宅の松葉に放火して居宅、物置小舍、牛小舍の三棟を燒失せしめたる一件は此程京城地方法院の公判に附せられたり

李人稙氏の葬儀

經學院司成李人稙氏の葬儀は二十八日氏の豫て信仰せる天理敎式に依り高陽郡龍江面阿峴火葬場に於て執行せられたり李完用伯、趙重應子、愈參與官、弓削學務課長、小田編輯課長其他總督府官吏並に内鮮有志天理教徒等多數の會葬あり大提學金允植は副提學李容植氏を代理として職員一同を帶同し靈前に於て祭奠を執行せしめたるが其祭文左の如し

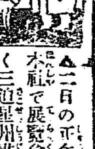
大正五年十一月二十八日經學院大提學金允植因病未遑躬詣副提學李容植帶同諸職員謹具菲薄哭訣于故經學院司成菊初李公之靈曰嗚呼哀哉嗚呼痛哉所哀者何年未高也所痛者何志未就也公之容儀沈潜言辭安詳宜其遐壽之享而未及耳順之年斯不可哀也哉敦倫興學利用厚生之道廣布道論於窮鄉遐陬使半島人民共進文明公之志也若得久任庶成就其志奈我公若是其速寧不可痛也哉嗚呼哀哉嗚呼痛哉

壯丁列車衝突原因
臨時列車失念の爲めとの說あり

東北線古間木驛に於て弘前師團に入營すべき壯丁を乘せたる列車衝突し列車八輛粉碎せし事は既報の如くなるが其後取調べの結果即死者は乘客二十一名職員三名重傷者六十二名に及べり尙衝突の原因に就ては未だ確證に接せざるも古間木驛助役が臨時列車の發車せる事を失念し通過證を交附したるに因るとの說あるも明確ならず(東京特電)

大邱談合事件

大邱土木請負業者竹下八郎外六名に對する談合事件控訴公判は大邱覆審法院にて卅日午前十時より裁判長齋藤判事丸山、森田兩判事陪席松村檢事の立會にて開廷され裁判長は被告七名に對し型の如き取調あり後細迫辯護士より崎府尹、前原技師、植松書記の喚問を請求せしも裁判長は之を却下せり午後松村檢事の論告あり之れに對し加藤、堀池兩辯護士の熱烈なる辯護あり何れも無罪を主張せり裁判長は十二月五日午前十時判決言渡すべく宣して午後三時閉廷せり



▲二日の正午から本社で展覽會を開く三迫星州畫伯は歐洲戰亂前に巴里で繪具を一度に千五六百圓も買込んだので今でも安くつく繪具を使つて居る▲だから氏の描いた繪は近頃賃で聞いた事のない程低廉な値で讓ることになつてゐる一體洋畫も古今に絕した世界的傑作は別として其他はさう高價にす可きものでないかも知れぬ▲畫伯は來年早々露西亞に行くので作品を携へて行くと稅關もかゝるし又贅澤品として輸入を禁ぜられるかも知れぬと云ふので成る丈け皆な買つて終ひたい都合に依れば月賦でも構はぬと云つて居る▲松永道長官曰く長谷川新總督も旬日の内には著任されるから京城市中でも歡迎の意を表するなら最う何んとか下相談位は有つても好さそうだ▲一體京城の催しは何によらず足元から鳥の飛び立つやうに切端詰つてから騷ぎ出すのが常だ其れで間に合ふから敏速だらうと自慢する事は感心されぬ▲新總督を歡迎すると云ふ事は阿諛迎合すると云ふ意味でない殊に朝鮮とは古くから深い關係ある新總督であるから市中でも歡迎の方法を考へて居るに相違ないが▲殊に其の名に負ふて居る長谷川町などは一番賑やかに歡迎の意を表しては何うかと▲頃日の花柳界では宴會の餘興に提灯競走といふのが流行る▲趣向は先づ美人の傍に印袢纏さへ帶と提灯と蠟寸とを置いて『火の用心〳〵』の合圖の鐘と共にはね起きていち早く決勝點に躍り込むといふ軍國主義、何所の宴會でも大流行とのこと▲一日の拂曉蓬莱町三丁目の道路に二十餘箇の汚物桶が覆へされて慘憺たる光景を呈してゐたこれはその附近に住む朝鮮人の狂人の仕業であるとのことだ

懸賞　新年文藝　募集

課題　▼和歌『遠山の雪』▼俳句『松飾』▼川柳『寶』▼俗謠『正月』▼ものは付『新しい物は』▼一口噺『新年に因めるもの』▼下句付『謠そめ』▼謎『新聞とかけて』

制限　(一人に付)一題一首又は一句、但し一人にて幾題稿するも可し(用紙)葉書又は同型の紙(〆切)十二月二十日(注意)題每に別用紙に認むる事『京城日報社編輯局新年文藝係』に宛て送附する事

賞品　各題に付▲一等一(一人)▲二等五十錢宛(二人)▲三等三十錢宛(三人)但し本社代理部の相當圖書切符贈呈す

衛生講話
腦神經衰弱と其治療法

●家庭と腦神經衰弱

神經衰弱患者を有する家庭程、世に不幸な家庭はない。それが主婦であつたなら、其家庭は、丁度太陽のない世のやうなもので情もなく温かみもなく冷やかに不幸な月日を送る事になる。一家の生活の花と見られ月とも見らるゝ處の主婦が一日中朝から晩迄頭痛鉢巻で居る時其一家の生活が如何に荒々しく不快になるかは世の中に幾ら實例のある事である自分の知つて居る家に、斯う云ふ一家があつた。それは、旦那は或る會社へ勤めてゐる人であつて、夫婦の間には小供が二人あつたが一人は中學生、一人は娘の子で未だ小學校通ひ。ほかに老母が一人あつた。處が不幸にも其家の

●主婦が強度の　ヒステリー症

であつて、一年中蒼白い顔をしながら一日中、只ぶら〳〵と暮すともなく日を暮す人だつた。

『あゝア又耳鳴がする』『頭痛がする』と云つて、年から年中、一家の主婦たるべき仕事をするでもなく、總ての家事は皆老母と下女に任せきりの有樣である。それでゐながら、一刻の休みもなく神經をピリ〳〵いらつかしてゐて下女が些かの粗末をしても無暗におこり散らす。老母がお前、家にばかりゐないで少し散步でもした方がよい』と時に云ふ情の言葉をもひがんで取つて『ねえ、病人は御邪魔でムいませう』と針を含む言葉を吐き散らすさまあ云つた風な主婦だつた。從つて夫たる人も、一日の役を終つて、ほつと一息家に歸つて來ても妻君は嬉しさうな顔一つしない。『おい、何をふくれてるんだい』と云へば、めそ〳〵と泣き出す有樣、夫も樂しかるべき家庭の不快さを苦にして居る處が其時はもう、夫も知らぬ間に『あアつまらないなア』と云ふやうになにかゝつてゐるのである。一日會社で肩を凝して、やれ〳〵と家へ歸れば家は氷の室同樣。疲れた心の休む暇もない苦勞に、何時か神經衰弱をきたした夫はやがて會社へ行つても面白く愉快に事務を取る事が出來なくなる。今迄毛程にも思つた事のない事を云つてみたり、不平が出たり友達へ對して厭味な事を云つてみたり、或は又重役の云ふ何でもない一言二言が癪にさわつたりする。そして其くせ事務を熱心にやつてるかと云ふにさうはなくて、いやに疲れを覺ねてゐる身體は、ともすれば眠氣に襲はれて『あゝアつまらない仕事だ』とばかりに欠伸ばかりしてゐる有樣。やつと時間になつて、退けて外へ出る頃には頭がづき〳〵痛んだり、まゆとまゆの間が、くしやくしやする、眩暈を覺へる――と斯うなるともう家庭は暗である。父と母の二人とも何時もきげんの悪いのに、子供達はおそ〳〵して、碌に勉強もしない事になる。すると怠惰につけ込んで來る悪い誘惑は、何時か年頃の中學生の身に喰入つて茲に又、青年の

●腦病や神經衰弱

と云ふものを見るやうになる、之ば青春の男女の一度は必ずあるべき症候であつて、原因は過度の勉強とか或ひは又色慾の不自然な調整から發するのである、學生は此れにかゝると無暗に氣短かになつて、ともすれば友達や教師に反抗したくなる。世の中が果敢なくなる。と云ふ風である。殊に悲しいのは『勉強しよう怠けてばかりゐられない』と心には思ひながらも、さて眼の前に本を擴げて見ると、讀むには讀んでも、よと氣が付いて見ると意味も何にも分らずに、只空讀みをしてゐる有樣、氣は益々いら立つて來て、やがては途方もない莫迦な空想を描いて、そのために父母も學校も忘れて了ふなぞといふ事になるのである。斯んな風で悲しむべき一家は益々悲しむべき淵に沈んで來る。恐るべく、悲しむべき神經衰弱症の一家の有樣は右に說いたやうなものである。社會には斯う云ふ氷室のやうな家庭が幾多もあるだらうか。世には此の暗黒の家庭に

●一點煌々の光

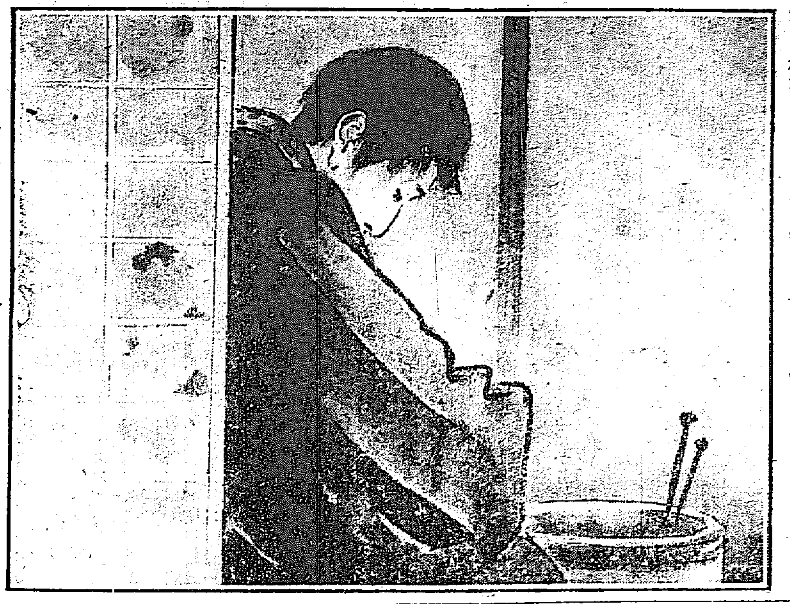
となり此哀れむべき家庭をして平和な幸福な家庭たらしむべき良藥がある。而もそれは唯一の神藥であつて、常持醫學士の創製藥で名は『レーベン』と云ふ。植物性の藥物である此『レーベン』は『リンサン』が多量に含有してあつて、米食人たる日本人に最も適合せるやうに和漢洋法を折衷して得たものである、而してそれだけの効能があるかは、岡田醫學博士や森學士の賞讃してゐるに見るも事實は何より最善の證據である患者諸君は一日も早くレーベンを服用せられたが好い、尙詳しき事は常持醫學士述の『腦神經衰弱ヒステリー療法』と『精神療法』の二冊を讀んだ方がよく解る。其本は東京市京橋區南町二十二、弘濟院中南定[illegible]郎氏宛に『ハガキ』で申込むと無代で送てくれるからレーベンの服用と否とを論せず遠慮なく早く申込まるがよからう

怒濤の月

(八) 小林蹴月作 武内桂舟畵

落選 (二)の四

『ほ、ほ、ほ、そりやお母さんのお訊ねを受けるまでも御坐いません。妾とても義理のある彼女のこツて御坐いますもの承知致さないものを、何で斯様な事を申して來られるもんで御坐いませう。では御坐いますがね幸ちやん、本人の絹代は、穴勝貴方に對して、愛憎盡しの意味から、斯様な事を申上げて呉れと申した譯では御坐いませんのよ。其處には其處のある事なんですからね、必ず……



必ず、わるく取て下さらないやうにね。』

お久も然る者である。物の美事に老母の鋭鋒を受け流して、故意に幸三郎の方へと、話の鋒先を向け直した。

『では、番町の叔母さん、絹代さんも矢張御承知の上だと被仰るんですね？』

斯う問ひ直した幸三郎の眼は、怪しくも光つた。強て言へば、絹代に限つては、決してそんな筈はないのであるが……と、不服を並べたさうにも見受けられたのである。

『何しに嘘なんか申すものですか。』と、お久は例の如才ない調子で『でも御坐いますからね、幸ちやん、こんな厭な辛い役目を負はされて來た妾に免じて、破談の事は承知して頂きますよ。お母さんもね、情願、お氣に濟まぬ節も御座いませうけれども是までの因縁とお斷念めになつて下さいますやうね。』

承知とも不承知とも答へぬ前から、お久はもう破事を獨り決めに決めて居るらしいのであるが、其處が即ちお久のお久たる所であらう。加之、お久は、是だけの事を並べ立てると等しく、そは／＼しげに膝の上の挨を拂つて、此の家を辭し去らうと爲る氣色さへ見られた。

『叔母さん、まだお歸りぢやないでせうね。』

幸三郎は、意地わるく言ふ了簡でもなかつたが、餘りにお久の自分勝手な擧動が、癪に障つたので、つい話の端に角が立つたのである。

『はあ、實は一通りのお話さへ濟んだら、お暇を致さうかとも思はないんぢやないんです。いろ／＼絹代の事に就いても忙しない事が、たゞまつて居るものですから……。』

『然うですか。ぢやお歸りになつても關ひはしませんけれども、僕は叔母さんにいま一言だけ確實に承はつときたい事があるんです。』

『まあ、大層改つた御口上ですわね。確實に聞いて置きたい事とは、何でせう？』

『外でもないんですがね、叔母さん絹代さんが果して、叔母さんの只今被仰る通り、何も彼も承知の上で、此の事を希望して居られるものと爲れば、僕は言ふまでもなく、自分の妻から離別を宣言されたやうなもんで御座いますね。』

『そりやまあ、理屈から言つたら、然う云ふ風にも取られるかも知れませんが、其處なればこそ、妾の方でもいろ／＼言ふに言はれない事情があるんだと、申しとるぢや御座いませんか。』

『いや、判りました。絹代ちやんの意志が然うであるなら、美事に離別の宣言を受取りませう。』と、幸三郎は、儼として言ひ放つて、更に母親の方へ向き變つた。『ね、阿母さん、互に結婚は爲ないまでも早晩、姑となり嫁となるべき約束が成立て居るものと思へば、貴女も非常に心強い所があると、つね／＼から被仰つてゝしたが、今お聞きの通りの次第ですから、一切その事は斷念して下さい。折角名譽の階段に足を踏みかけやうとして、春以來大苦心を凝らした文展の落選と……然も同日に、許嫁の妻から、離別の宣言を受取ると云ふも、何か其處に淺からぬ不思議の因果が含まれて居るのかも知れませんね。』

今更の如く兩の腕を組み合はした幸三郎は、貧の苦痛以外、生れて初めて、今日の如き悲運の罠に身と心とを突き落された事を、深くも深く慨嘆するの、外はなかつたのである。

『幸三郎、何にも言ふ所ぢやありません。番町の叔母さんが、わざ／＼出でお在でのお話ですもの、快く承知の旨を答へて、お歸りになつて頂くが好う御座います。』

老母は淋しげに薄笑つた。内心には幸三郎以上の悲痛を感じて居るのであつたが、兎や角爭つて見ても詮ない話と觀念したので、唯餘儀なしにその場のばつを合したのである。

お久は、それと反對に、先づ一段落と思つたのであらう、陰を向いてにゆつと微笑む。

◉年賀用名刺 ハガキ 十五日限り
京城 太平堂名刺舗
電話二七二番 振替二三六七番

永樂町二丁目 金光教會向西三軒目
奇石治療 元家酒井楢吉出張
皮膚病胃腸病婦人病神經痛リウマチス特効有り

移轉診療
京城南大門驛横二見旅館内にて診療中の處患者各位の御便利上
長谷川町 安東病院外科室に
十二月一日より移轉從前の通り診療に從事仕候
肛門病痔疾注射專門醫院

新刊紹介

▲牛（岡本米藏著） 生牛に非ず肉牛に非ず『驅て牽かれて善光寺に參りたさに自ら嫌めて得たる 四の牛』なり獨立自營貧家に生れて刻苦奮闘終に家を興し名を成したる著者が神を畏れて人を怖れず誠と責任の觀念とを以て意義ある人生を終始すると共に我國民族の發展上海外進出を慫慂せるものにして社會百般の事相に採り和歌俳句俚言等を配して金言警句を羅ね著者の身の上以下五十三篇凡て之青年修養の金科玉條たらざるはなし初刊以來既に五十版を重ぬ（一圓京城日報社代理部）

▲商工界の七十日（岡本米藏著） 著者が東京高等商業學校在學中學資自給の爲め夏期休暇を利用して關東、關西、東北、北陸、北海道の各地を行商せる際主なる工場店舗を視察し名士を訪問して探究見聞せる事實を紹述せるもの記述する所實業家は勿論學生の觀察家より深きを得ざれども頗くして特殊各地の商況情勢を推知するに難からず（五十錢京城日報社代理部）

▲紐育市内外の地所（岡本米藏著） 著者は現に紐育土地建物株式會社長たり世界に於て最大なる人口增加率を有し而も今回の歐洲大戰に依り世界の經濟中心點たる紐育の將來を論じ著者が年來の經驗に基き紐育市及近郊の土地を前後八年に亘り各方面より仔細に調査研究し其の將來に於ける趨勢を論じたるもの數十の寫眞版を挿入し併せて同地の驚くべき迅速なる發達を知るに足るべし（一九十錢京城日報社代理部）

▲修學行商日記（岡本米藏著） 著者が年少にして獨立自營の志を確立し山陽西海、東北の各道より北海道に亘り學資自給の傍ら各地の人情風俗を探り名所舊蹟を訪ひ知名の士を訪問して種々なる感想を記したるもの行く先々困苦に遭遇する毎に勇氣を倍加し奮鬪努力せる所眞に流涕し自ら人をして感涙に咽ばしむるものあり行文亦鋭達著者が意志の人識の人にして又筆の人たるを知るべし（三十五錢京城日報社代理部）

▲婦人週報（二の四七） 四錢五厘 東京市牛込區市ケ谷田町二の一七 其社

▲人文（十二月號） 日記及書簡から見たヘッケル『新體造』等（十四錢東京市小石川區）

▲婦人畫報（十二月號） 皇后陛下、皇太子殿下の御面影等（三十錢東京市京橋區疊町一東京社）

讀者の聲

▲一つお土産話を報告します北京の高等師範學校の張某と云ふ先生の家へ化物が出て娘は其爲めに死んで了ひ妻君も此化物を見たとかで病氣に罹つたけれど張先生は新教育を受けた人丈けあつて神經作用だと云つて化物を信じなかつたが或日先生も其化物の爲めに惱まされ樣としたので先生は道義を說いて化物と論じたさうだが其後妻君の病氣益々重り張先生も精神が錯亂となつて居る此頃北京では大評判だ（北京歸客）▲僕は朝鮮建の家に住んで居て門を開け放しにして置いたら七圓五十錢の靴を一足掻拂はれたが郷に入つては郷に從へで朝鮮式に門を閉めぬと險呑だ（門戸開放者）▲小學校の高等科生の操行の成績が概して悪いやうにある寒心に堪へぬ次第だ今少し薫陶宜しきを得たいものである（父兄の一人）▲二十八日の夜明治町東拓の横を某所の女事務員とインバネスの男が並んで話し乍ら歩いて居たのを後から來た人體の男何う思ふたか『馬だ馬だ』と云ひながら二人の中を割つて通つて了つた（見た人）

ミツワ石鹸

技師 工學博士 片山 理學士 藤野太治郎 鑑定

純正の石鹸は亞爾箇保兒に透明に溶解し、遊離脂肪なきが故に混濁する事なく、混合物なきが故に些の沈渣をも殘留せず、更に『フエノールフタレイン』を以て、仔細に遊離の亞爾加里を驗するも、毫末の反應を呈する事なき、是を化學上の純石鹸なりとす。

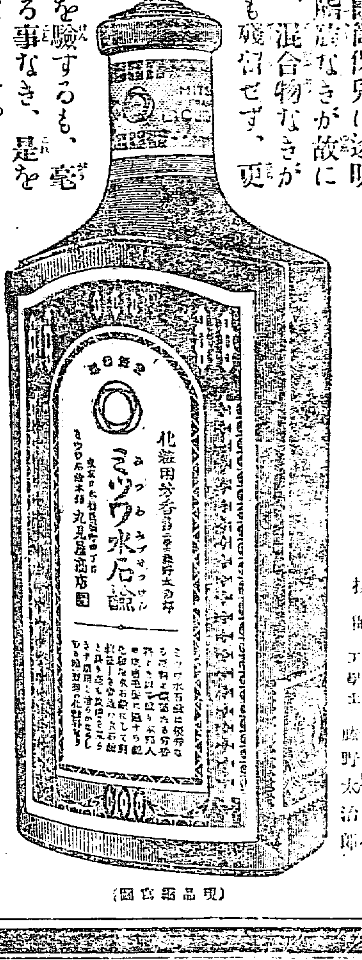
皮脂の分泌量多くして而かも粗糙なる本邦人の皮膚、及び漆黑を貴ぶ毛髮の洗滌に用ふべき化粧用石鹸は、啻に化學上の純石鹸たるの故のみを以て其適否を論ずべからず。

◎ミツワ石鹸は化學上の純石鹸たるのみならず、尚左の性狀を具備す

一、原料を精選し、脂肪に香料に、苟も刺戟を感ずべき虞あるものを用ひず。
一、温雅の芳香を有す。
一、細き泡沫を生じ、適度の溶解性を備へて能く水にも溶解し、而かも浴室に用ひて、半途に溶け崩るゝが如き憂なし。

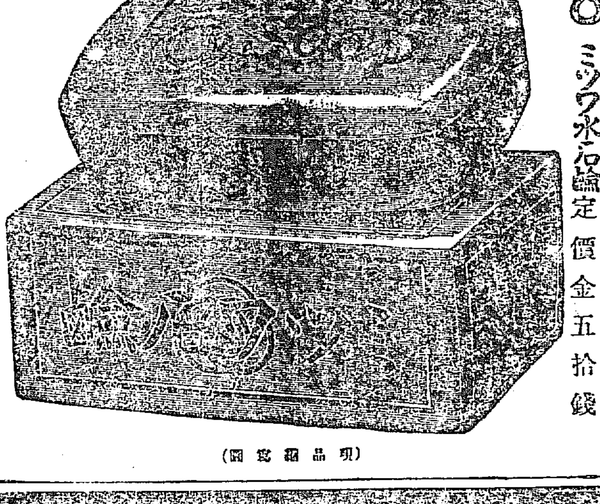
故に一般の家庭に於ける、浴室、化粧用として、衛生に適し、經濟に合する理想的實用石鹸なり。

新發賣 ◎ミツワ水石鹸 定價金五拾錢



(現品寫眞圖)

種類		
大形	家庭用	定價金二十錢
中形	携帶用	定價金十三錢
小形	旅行用	定價金十錢
極小形	旅館用	定價金五錢


(現品寫眞圖)

▲賣捌＝全國到る處の化粧品店。小間物店。藥舖。洋酒食料品店▼

本舗
ミツワ石鹸
規那鐵葡萄酒
ミツワ家庭藥
肝油ドロップス
御園化粧品
發賣元 ◎ 登錄商號 丸見屋商店
東京市日本橋區橘町四丁目
藥劑、滋養品、石鹸、香粧品、小間物問屋
電信略號◎ミヤ……振替口座東京七一〇番
營業部電話浪花三〇・四四八・四四九・四五〇番

阿波共同汽船仁川出帆

第二共同丸 關東都督府命令航路 芝罘、大連行 十二月三日入港 十二月五日正午出帆

阿波國共同汽船株式會社
仁川代理店 本町四丁目（電話一七三番） 野口商會
元山代理店 春日町（電話二四四七番） 田口回漕部
京城取次店 南大門（電話二六八・二〇一七） 河村運送店

朝鮮郵船出帆

仁川支店 電話長一九五二番 京城南大門驛前 京城荷客取次店 松原運送店（電話長一七〇番）

○全羅丸 十二月五日
○京畿丸 十二月十六日
○咸鏡丸 十二月十二日 釜山發
○鏡城丸 十二月四日
○昌平丸 十二月二日
○錦城丸 十二月 日 元山發
○第二錦旋丸 十二月十一日
○忠清丸 十二月七日
○平壤丸 十二月一日 元山發
○德丸 十二月二日 釜山發
○江陵丸 ○漢陽丸 毎日 釜山發
○三浦丸 月 日 釜山發
○濟州丸 ○巨濟丸 ○慶寶丸 毎日 釜山發
○順天丸 三日目毎ニ 木浦發
○慶興丸 十二月四日 木浦發
○慶興丸 十二月二日 木浦發
○公州丸 月 日 木浦發
○宗信丸 十二月一日 仁川發
○江原丸 芝罘、大連青島行 十二月七日 仁川發
○麗水丸 ○晋州丸 十二月一日 八日 仁川發
○全州丸 ○南陽丸 江華島、喬桐島、海州行 毎日午前 仁川發

大阪商船仁川出帆

○安東丸 十二月十六日
○天草丸 十二月十二日 後五時出
○信濃川丸 十二月十三日 後二時出
○木浦丸 十二月 四日 正午出帆
○大連丸 十二月十一日 正午出帆
○宮島丸 十二月 五日 後二時出
○上海丸 十二月十五日 午前六時出

京城切符發賣所 大阪商船會社仁川支店

商況
一日の二月限